

しずおか県民カレッジ受講者における 生涯学習ニーズに関する調査報告書

静岡大学生涯学習教育研究センター

(財) 静岡県生涯学習振興財団

目 次

はじめに	1
第1章 県民カレッジの概要	2
1. 趣旨	2
2. 称号について	2
3. 講座の分類について	2
4. 組織	3
5. しずおか県民カレッジの仕組み	3
6. しずおか県民カレッジの称号付与者の推移	4
7. 連携機関・連携講座数	4
8. 部門別講座数	5
第2章 調査の概要	6
1. 調査方法と調査対象	6
2. 調査内容	6
3. 回答者の属性	6
第3章 県民カレッジにおける学習状況	9
1. 受講歴と受講希望	9
2. 受講動機	10
3. 主催講座の希望	11
4. 主催講座の開催希望日時	11
第4章 生涯学習への取り組み状況	13
1. 生涯学習講座・活動への参加状況	13
2. 生涯学習実践のための必要条件	13
3. 生涯学習を進める上での問題点	14
4. 生涯学習を進める上でほしい情報	15
5. 生涯学習でほしい場や機会	15
6. 学習の方法・形態	16
7. 望ましい学習の場所	17
8. 学習成果の活用・貢献のための条件	17
9. 活動の状況と希望分野	18
10. 県民カレッジに望むこと	19

第5章	受講者年齢別の分析	21
1.	年齢別・受講経験と希望分野	21
2.	年齢別・受講動機	23
3.	年齢別・主催講座に関する希望	24
4.	年齢別・学習に必要な条件	24
5.	年齢別・学習をする上での問題点	25
6.	年齢別・生涯学習のためほしい情報	26
7.	年齢別・ほしい場や機会	27
8.	年齢別・学習方法・形態	28
9.	年齢別・学習したい場所	29
10.	年齢別・活用・貢献のための条件	30
11.	年齢別・活動歴と希望活動分野	31
12.	年齢別・県民カレッジに望むこと	33
第6章	県民カレッジ受講歴別の分析	34
1.	受講歴別・受講動機と主催講座に関する希望	34
2.	受講歴別・学習に必要な条件	35
3.	受講歴別・学習をする上での問題点	36
4.	受講歴別・学習のためほしい情報	37
5.	受講歴別・ほしい場や機会および学習方法・形態	38
6.	受講歴別・学習したい場所	40
7.	受講歴別・活用・貢献のための条件	41
8.	受講歴別・今後取り組みたいこと	42
9.	受講歴別・県民カレッジに望むこと	43
第7章	調査のまとめと今後の課題	44
1.	県民カレッジにおける学習状況から	44
2.	生涯学習への取り組み状況から	44
3.	受講者年齢別の分析から	46
4.	県民カレッジ受講歴別分析から	47
5.	今後の課題	48
第8章	付録	50
1.	アンケート調査自由記述抜粋	51
2.	アンケート調査票および単純集計結果	60

はじめに

「しずおか県民カレッジ」は、生涯学習社会実現に向け、静岡県教育委員会が平成 8 年度に開設した生涯学習支援プログラムである。平成 15 年度からは財団法人静岡県生涯学習振興財団の運営となり、主催講座・連携講座を軸に展開している。主催講座は「専門的知識・技術を持ちボランティア活動等に参加する人材を養成するとともに、地域教育推進リーダーを育成し、住民主体の地域づくりを推進する」もので、連携講座は「市町村、大学、民間教育業者、専修学校・各種学校等と連携して広域的・体系的な学習機会を提供する」ための連携プログラムである。

平成 17 年度では、主催講座のボランティア養成講座・地域教育推進リーダー養成講座合わせて 13 講座開設され、計 218 名の参加者を集めた。連携講座は 139 機関が参加し、5,450 講座が開設された。県民カレッジでは主催講座・連携講座受講生に対し単位認定をしさらに称号の付与も行っている。原則 1 時間 1 単位とし、100 単位一ふるさと学士、300 単位一ふるさと修士、500 単位一ふるさと博士となる。称号授与者ののべ人数は、それぞれ 1,434 名、279 名、177 名で、計 1,890 名である（平成 18 年 3 月現在）。

静岡大学生涯学習教育研究センターは、静岡大学が連携講座の実施機関として参加するにあたり連携の窓口となっており、合わせて主催講座の講師や県民カレッジ推進委員会に委員を派遣するなど県民カレッジとの連携をはかっている。今回、そうした連携の一環として、静岡県生涯学習振興財団と連携して称号授与者に対するアンケート調査を企画・実施することとなった。

静岡県民の生涯学習ニーズに関しては県教育委員会を中心に幾度か調査がされている。ただ、県内で展開されている生涯学習講座への継続的受講者（リピーター）に絞った調査はほとんど実施されることがなかった。今回の調査では、前述したふるさと学士・修士・博士の称号授与者を主な対象とし、数多くの講座・学習機会に参加してきたリピーターがどのような学習ニーズを持っているか、生涯学習を進めるにあたりどのような課題を持っているのか、学習の成果をどのように活かしたいと考えているのかといった事柄を探った。

第1章

県民カレッジの概要

1. 趣旨

「しずおか県民カレッジ」は、生涯学習社会実現に向け、静岡県教育委員会が平成8年度に開設した生涯学習支援プログラムである。

平成15年度からは財団法人静岡県生涯学習振興財団の運営となり、主催講座・連携講座を軸に展開している。主催講座は、静岡県生涯学習振興財団が実施し、専門的知識・技術を持ちボランティア活動等に参加する人材を養成するとともに、地域教育推進リーダーを育成し、住民主体の地域づくりを推進するものである。

連携講座は市町、市町教育委員会、大学、高等学校、専修学校・各種学校、民間教育事業団体、NPO等が実施する社会教育関係の講座のうち、「しずおか県民カレッジ」に登録された講座である。

平成17年度では、主催講座のボランティア養成講座・地域教育推進リーダー養成講座合わせて13講座開設され、計218名の参加者を集めた。連携講座は139機関が参加し、5,450講座が開設された。

2. 称号について

県民カレッジでは、主催講座・連携講座受講者に対し、原則1時間1単位として単位認定をし、さらに希望者には下記のようなかたちで称号の付与も行っている。称号授与者のべ人数は、ふるさと学士が1,434名、ふるさと修士が279名、ふるさと博士が177名で、計1,890名である（平成18年3月現在）。

修得単位	称号
100単位	ふるさと学士
300単位	ふるさと修士
500単位	ふるさと博士

3. 講座の分類について

しずおか県民カレッジの講座は、次の8部門に分類されている。

部門別分類

1.ふるさと生活学	2.ふるさと社会学	3.ふるさと文化学	4.ふるさと地域学
家庭教育をはじめ、健康づくりや福祉・ボランティアに関する学習など、生活の在り方を学ぶ講座	政治・経済・法律から男女共同参画形成の問題まで、社会の様々な問題を見つめ考える講座	文学、レクリエーション、スポーツ、芸術など文化的・芸術的なことから趣味まで幅広く学ぶ講座	地域の歴史、文化、自然などを見つめ直したり、まちづくりを考えたりする講座
5.ふるさと国際学	6.ふるさと情報学	7.ふるさと環境学	8.ふるさと総合学
外国語の学習や国際交流に関する学習など、国際理解・国際感覚を養う講座	情報化社会に的確に対応する考え方、技術などを学ぶ講座	環境問題について様々な角度から見つめ考え合う講座	総合的に、いくつかの分野・領域にまたがり学習する講座

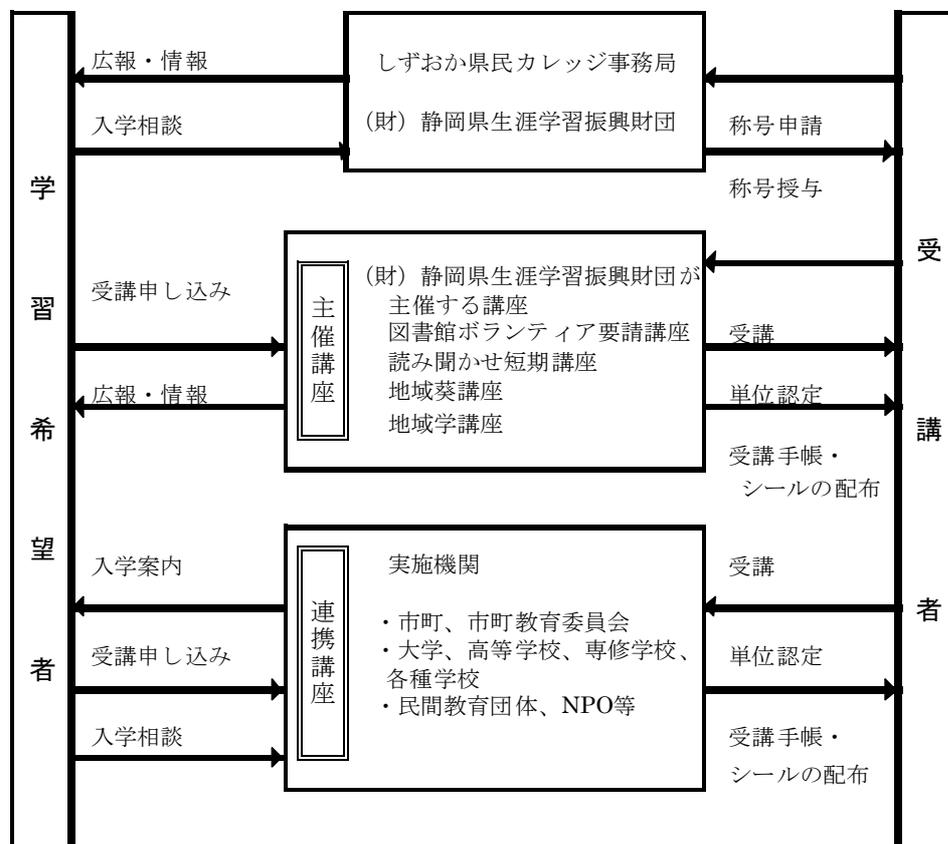
4. 組織

県民カレッジの組織は下表のようになっている。

学 長	静岡県知事	副学長	静岡県教育委員会教育長
推進委員会	(構成)学識経験者・実施機関代表・学習者代表および行政の代表 (役割)県民カレッジの運営に関する専門的事項を審議・決定		
事務局	財団法人静岡県生涯学習振興財団		

5. しずおか県民カレッジの仕組み

県民カレッジの仕組みは下図の通りである。



6. しずおか県民カレッジの称号付与者の推移

年度	学士	修士	博士	計
8年度	181 (181)			181 (181)
9年度	227 (214)	3 (3)		230 (217)
10年度	245 (197)	25 (23)	6 (6)	276 (226)
11年度	238 (228)	45 (40)	16 (16)	299 (284)
12年度	254 (234)	78 (70)	33 (26)	365 (330)
13年度	55 (26)	39 (29)	35 (28)	129 (83)
14年度	90 (68)	28 (20)	28 (26)	146 (114)
15年度	44 (29)	22 (19)	29 (27)	95 (75)
16年度	52 (36)	17 (12)	12 (12)	81 (60)
17年度	48 (43)	22 (20)	18 (14)	88 (77)
計 (人)	1,434 (1,256)	279 (236)	177 (155)	1,890 (1,647)

* ()の数字は、65歳以上の人数

7. 連携機関・連携講座数

機関		県教委・県	県外郭団体等	大学	高校	専修学校	市町村	民間教育事業者	その他	計
8年度	機関数	6	6	8	38	4	42	5	0	109
	講座数	20	36	20	42	42	427	306	0	893
9年度	機関数	7	5	9	20	4	74	5	0	124
	講座数	16	46	27	24	45	641	539	0	1,338
10年度	機関数	7	1	9	56	2	72	11	0	158
	講座数	44	1	26	65	2	673	769	0	1,580
11年度	機関数	7	2	14	46	0	62	12	0	143
	講座数	55	6	30	60	4	958	1,367	0	2,480
12年度	機関数	6	2	11	0	9	46	10	2	86
	講座数	22	3	49	0	1	917	1,674	226	2,892
13年度	機関数	20	4	17	12	1	67	11	5	137
	講座数	46	7	78	33	5	1,975	1,758	275	4,177
14年度	機関数	11	3	11	12	36	56	10	12	151
	講座数	24	10	100	25	0	1,309	2,329	321	4,118
15年度	機関数	11	2	12	4	0	47	12	24	112
	講座数	24	11	56	10	0	810	4,290	447	5,648
16年度	機関数	7	4	15	12	0	36	13	15	102
	講座数	19	8	59	25	0	748	4,276	359	5,494
17年度	機関数	10	3	22	8	0	80	11	12	146
	講座数	21	10	60	14	0	616	4,419	310	5,450

8. 部門別講座数

部門 年度	ふるさと 生活学	ふるさと 社会学	ふるさと 文化学	ふるさと 地域学	ふるさと 国際学	ふるさと 情報学	ふるさと 環境学	ふるさと 総合学	計
8年度	200	22	406	49	67	78	25	45	892
9年度	213	32	631	65	125	156	32	84	1,338
10年度	241	40	925	79	141	67	20	67	1,580
11年度	291	39	1,762	82	141	67	10	84	2,476
12年度	394	27	2,003	85	135	148	11	97	2,900
13年度	539	60	2,852	117	212	239	19	135	4,173
14年度	424	71	2,925	124	279	212	34	85	4,154
15年度	534	81	4,297	89	351	224	25	47	5,648
16年度	566	76	4,133	90	387	189	13	40	5,494
17年度	519	71	4,185	97	384	126	11	57	5,450

第2章

調査の概要

1. 調査方法と調査対象

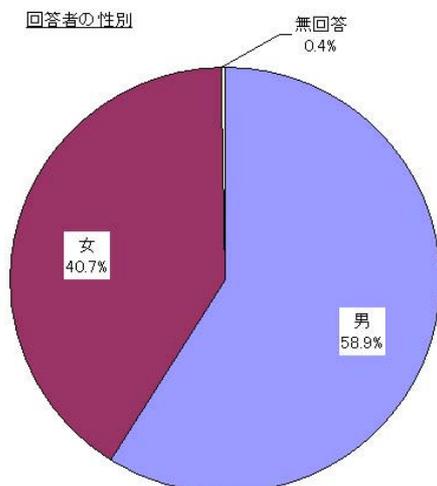
調査は平成17年2月に、ふるさと学士・修士・博士の称号授与者（345名）と静岡大学公開講座受講者（117名）の計462名に調査票を郵送し、3月末日までに263通の回答が寄せられた（回収率約57%）。[アンケート用紙と結果の概略は巻末資料として添付している。]

2. 調査内容

調査では以下のような項目を尋ねた。

- ・回答者の属性に関する基礎項目
[住所、性別、年齢、職業・生活形態、学歴]
- ・県民カレッジについて
[講座ののべ履修時間、認定学位、受講歴、受講希望、受講動機、その他県民カレッジに関する希望]
- ・生涯学習への取り組みについて
[取り組み状況、必要条件、問題点、成果の活かし方、その他学習に関する種々のニーズ]

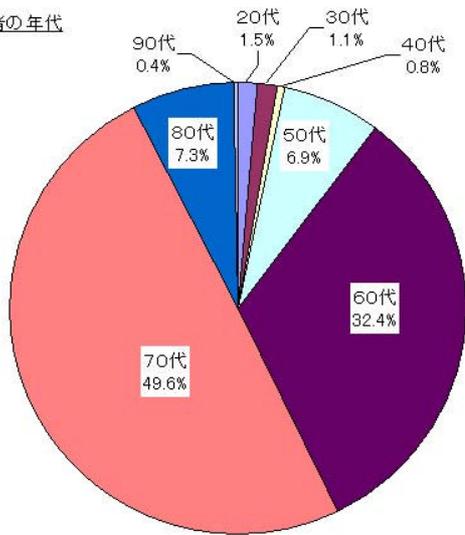
3. 回答者の属性



最初に回答者の属性を確認しよう。

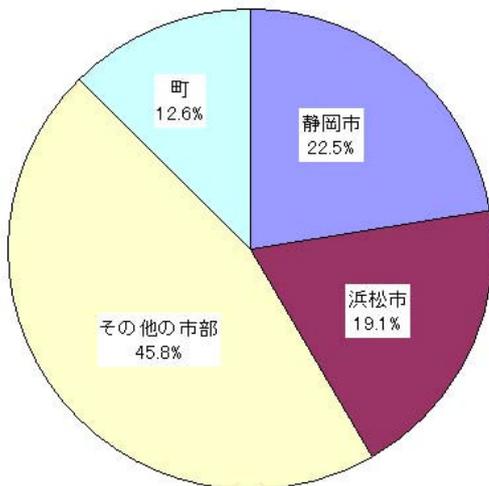
性別は、男性が58.9%、女性が40.7%である。講座の受講者は女性の方がむしろ多い印象があるが、称号授与者に限ると男性がかなり多い。

回答者の年代



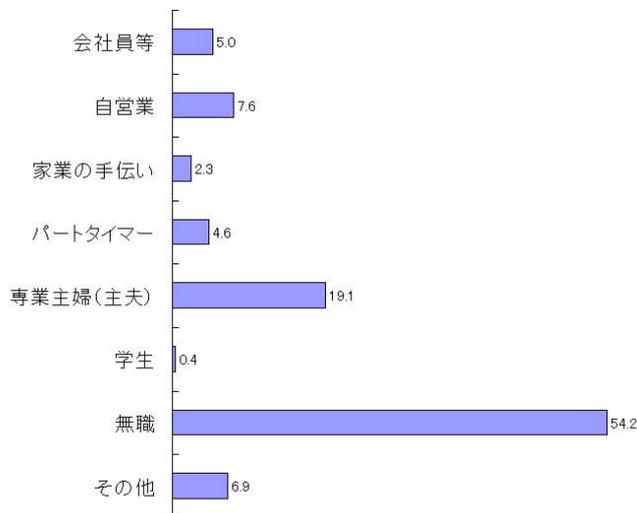
年齢別では、70代がほぼ半数で最も多く、次いで60代が32.4%で、50代・80代が7%ほどで、他の年代（20代～40代と90代）を合計しても4%弱とごく少数である。

回答者の居住地

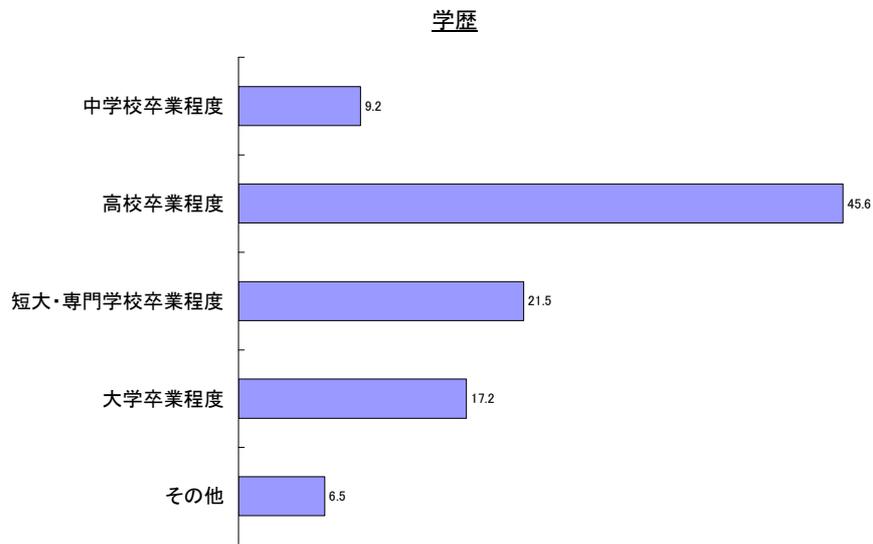


居住地は、静岡市、浜松市が各2割前後、その他の市部と町を合わせて6割ほどだが、その後浜松市と周辺市町の合併があったので、現在ではこの比率は若干変化していると思われる。

職業・生活形態



職業・生活形態では、無職が圧倒的に多く、専業主婦（主夫）が続く。年代と合わせて考えると、称号授与者の中心は、退職後の70代前後の高齢者が占めているといえる。



学歴をみると、高校卒業程度が5割弱で最も多く、短大・専門学校卒業程度、大学卒業程度と続く。

第3章

県民カレッジにおける学習状況

1. 受講歴と受講希望

まず県民カレッジ連携講座への受講状況についてみていく。

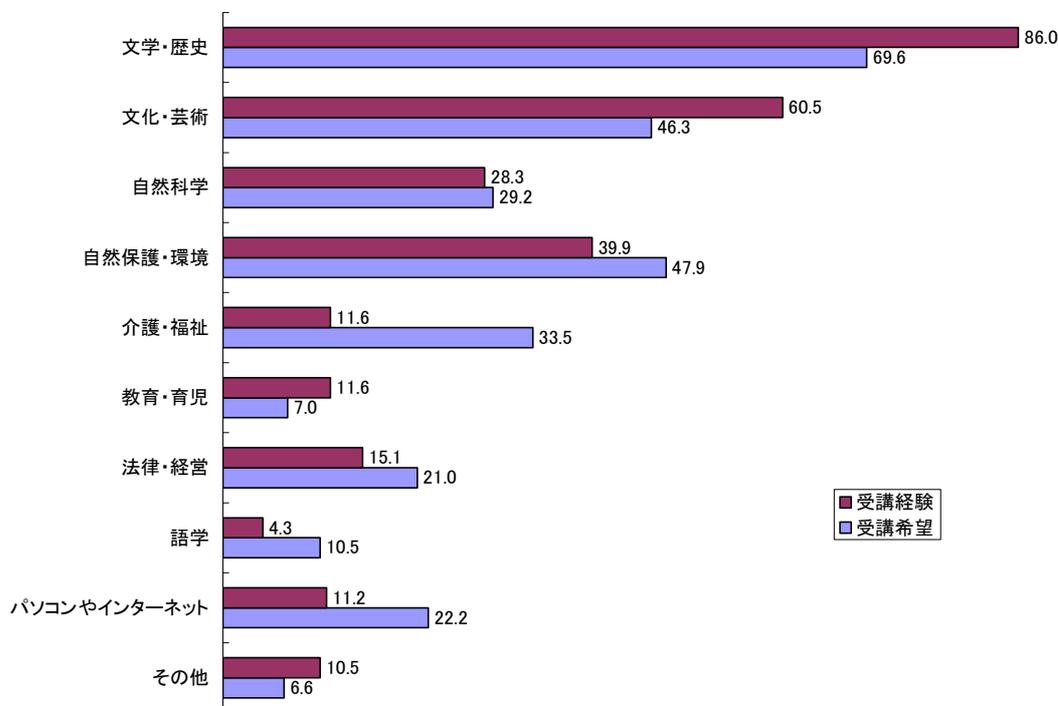


図 3-1 受講歴と受講希望

上図は9つの学習分野に関して、①これまで受講してきたもの、②今後受講したいもの、それぞれをたずねた項目をグラフ化したものである。

①受講経験では、「文学・歴史」が9割近くを占め、「文化・芸術」(60.5%)「自然保護・環境」(39.9%)「自然科学」(28.3%)「法律・経済」(15.1%)と続く。

「介護・福祉」「教育・育児」「パソコンやインターネット」の受講経験があるのは1割ほどで、語学は4.3%に過ぎない。

②受講希望をながめると、やはり「文学・歴史」(69.9%)が多いが、「自然保護・環境」(47.9%)「文化・芸術」(46.3%)「介護・福祉」(33.5%)「自然科学」(29.2%)と続き、受講経験の順位とは入れ替わりがある。

受講歴と受講希望と比べて注目されるのは、「介護・福祉」(11.5→33.5%)「パソコンやインターネット」(11.2→33.5%)、語学(4.3→10.5%)の項目で、希望の方が受講

経験を大きく上回っていることである。「自然保護・環境」(39.9→47.9%)も合わせ、これらの学習分野は実習・体験型で、また教養型の座学というより受講者の生活課題に直結したものが多い。こうした学習分野では県民のニーズに講座開設が追いついていない現状がうかがえる。

2. 受講動機

図 3-2 は県民カレッジの講座受講動機をグラフ化したものである（複数回答可）。

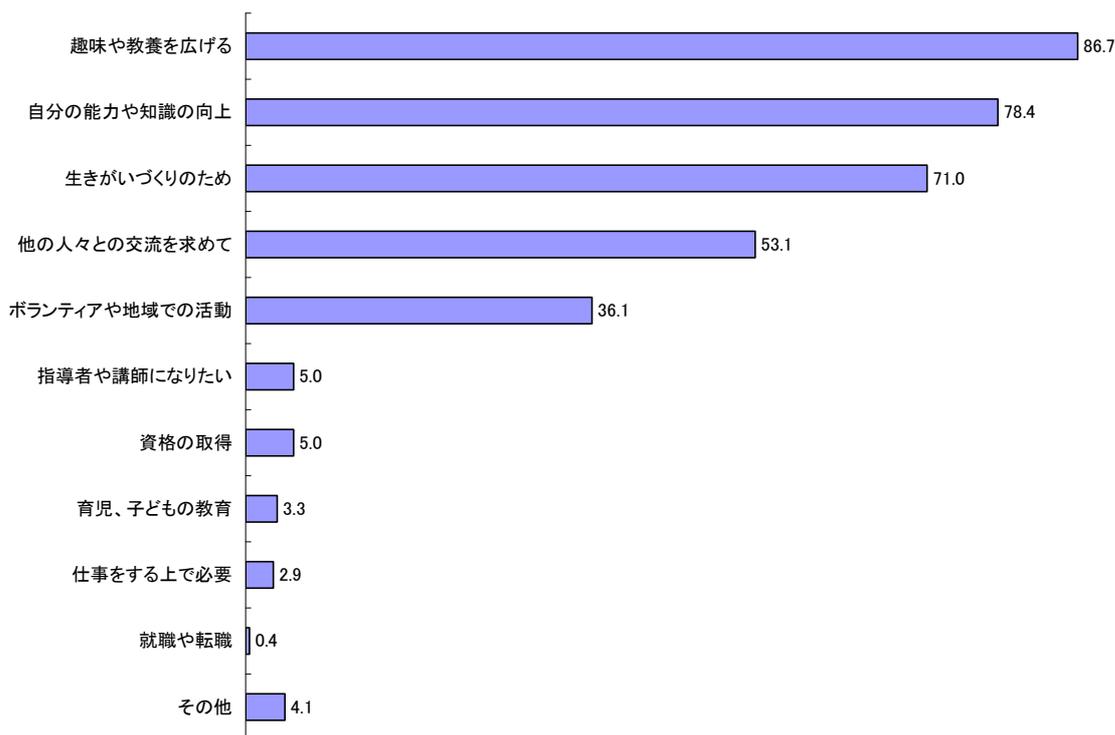


図 3-2 受講動機

「趣味・教養」(86.7%)「能力や知識の向上」(78.4%)「生きがいづくり」(71.0%)が上位を占め、自分自身の教養・知識を高め生きがいにつなげるという動機が強い。「他の人との交流」(53.1%)「ボランティア・地域活動」(36.1%)など他者志向を持つ項目がそれに続くが、数値はだいぶ下がる。

県民カレッジ講座のリピーターで、ふるさと学士等の学位を持つ受講生が主な対象者のため、当初は経験を活かして教える側になりたいという動機が高いのではと考えたが、「指導者・講師になる」は5%に過ぎない。

また、「資格取得」「仕事をする上で必要」が3%程度、「就職や転職」は0.4%に過ぎず、多くの時間を費やした受講の動機がキャリア・アップのためではないことが示された。この点については、年齢別・職種別に分けて見ていく必要があるが、全体で眺める限りかなり明白な傾向といえる。

3. 主催講座の希望

県民カレッジには、県内の諸機関が実施する連携講座と静岡県生涯学習振興財団自身が企画・実施する主催講座がある。主催講座は、「専門的知識・技術を持ちボランティア活動等に参加する人材を養成するとともに、地域教育推進リーダーを育成し、住民主体の地域づくりを推進するもの」であり、地域リーダーなどの人材養成講座である。

主催講座ではどのようなテーマ・領域の希望が多いのか。これについてたずねた結果を図 3-3 に示す。

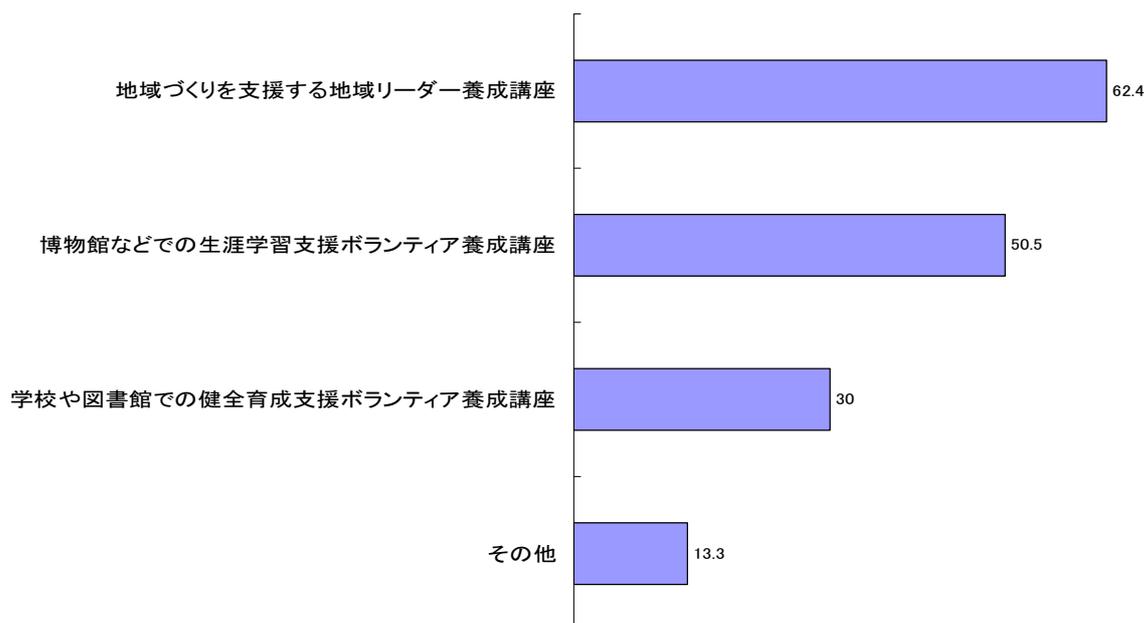


図 3-3 希望する主催講座

「地域リーダー養成講座」の希望が多く 6 割を超え、「生涯学習支援ボランティア養成講座」も人気が高い。

4. 主催講座の希望開催日時

県内の諸機関が実施する連携講座は様々な日時に開催されているが、ある程度継続的に受講する必要があるリーダー及びボランティア養成講座の開催日時についてはどのような希望があるのか。図 3-4 は平日・土・日に分け、それぞれどの時間帯の開催希望が多いかをグラフ化したものである。

平日の午後・午前が圧倒的に多いが、前節でみたようにこれは、今回の回答者においては 60 歳以上が 8 割を占めるという属性を反映している。

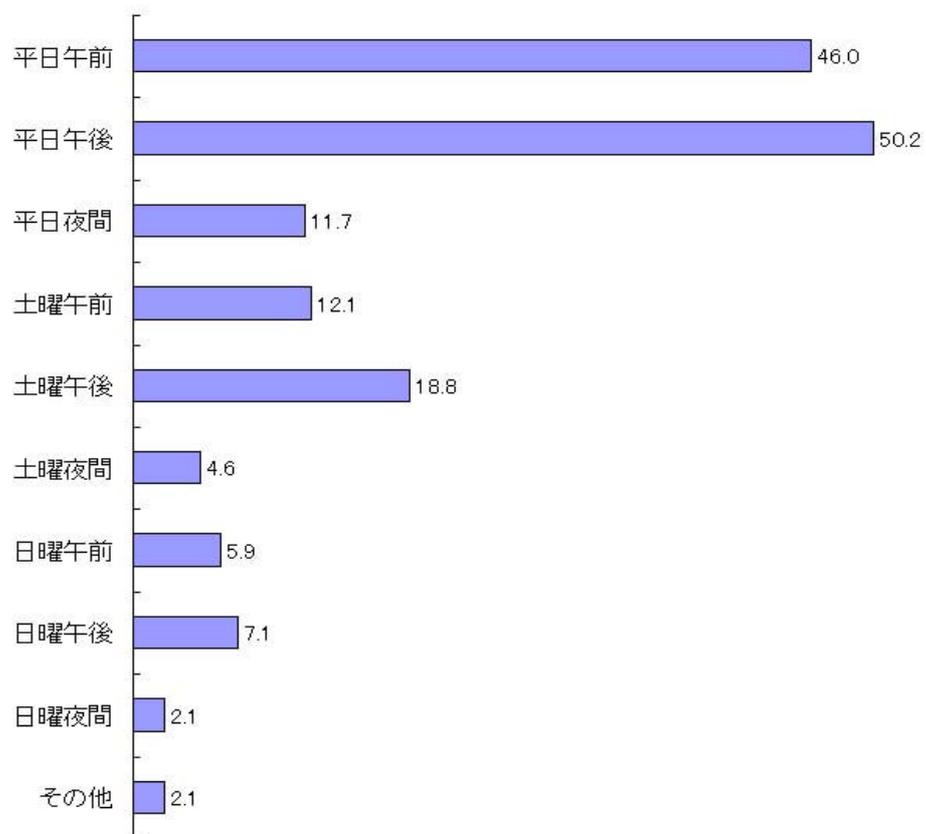


図 3-4 主催講座の開催希望日時

第4章

生涯学習への取り組み状況

1. 生涯学習講座・活動への参加状況

つづいて、生涯学習への取り組みについてみていこう。

図 4-1 は、県民カレッジに関連したものかいなかを問わず、最近 1 年間における生涯学習活動への参加状況をグラフ化したものである。

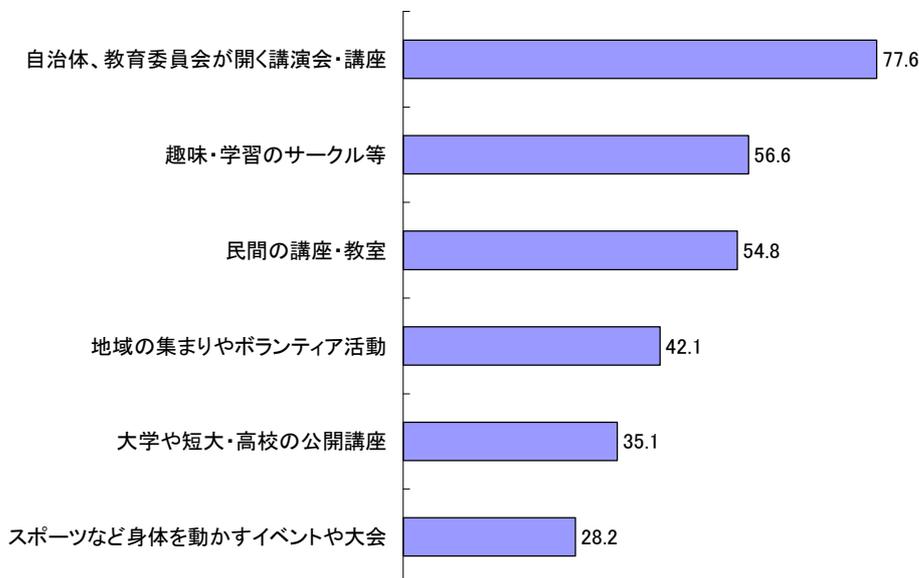


図 4-1 学習活動への参加状況

やはり「行政が行う講演会・講座」への参加が多く（77.6%）、「趣味・学習のサークル」「民間の講座・教室」への参加がそれに続き、5割を超す。「地域の集まりやボランティア活動」はそれらに比べると少なく、「スポーツ・イベント」への参加は3割を切っている。

2. 生涯学習実践のための必要条件

調査では、生涯学習を実践していく上で必要な条件についてもたずねた。

図 4-2 は、どういった条件があれば各人の学習活動が活性化するかをグラフ化したものである。回答で圧倒的に多いのが「広報、講座情報提供の充実」で、普段から数多くの講座や教室に参加している回答者にとっても、まだまだ情報が足りないと感じられていることがわかる。

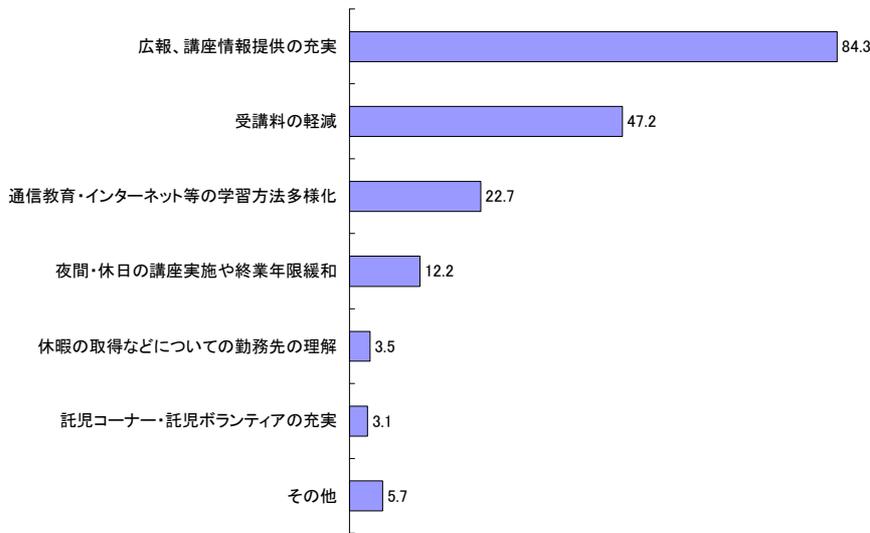


図 4-2 生涯学習実践のための必要条件

民間教育事業者による講座・教室への参加も多かったため、「受講料の軽減」が2番目に回答が多い項目となった。「勤務先の理解」「託児コーナー・ボランティア」についてはほとんど回答がなかったが、これについてはニーズがないというより、この条件を必要とする勤労者と子育て中の母親などの層が今回の調査対象にほとんどふくまれないためとみられる。

3. 生涯学習を進める上での問題点

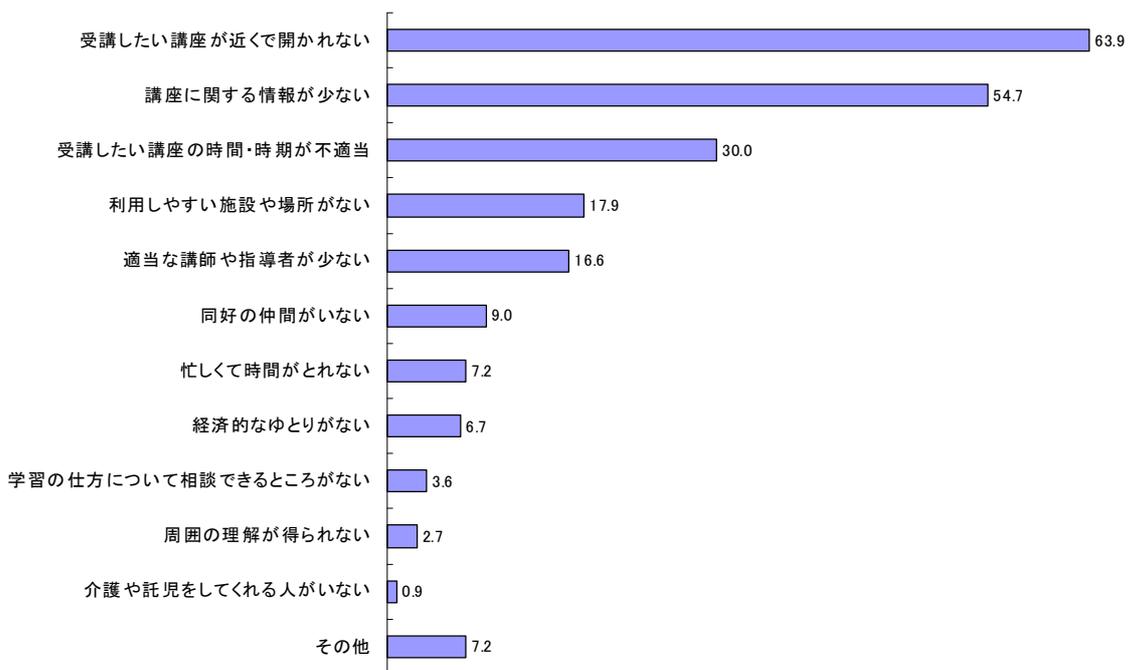


図 4-3 生涯学習を進める上での問題点

図 4-3 は、学習を進める上で問題となってくる事柄をグラフ化したものである。前節の項目とも関連する「講座に関する情報が少ない」が 54.7%の回答を集めているが、「受講したい講座が近くで開かれない」という項目はそれを上回って問題とされている(63.9%)。「受講したい講座の時間・時期が不適當」という項目(30%)も合わせ、受講者が受けたいと思う講座をみつけながら、場所と時間の問題で受講できないという不満をかなりもっていることが確認できた。

4. 生涯学習を進める上でほしい情報

生涯学習を進める上でほしい情報についてもたずねた。

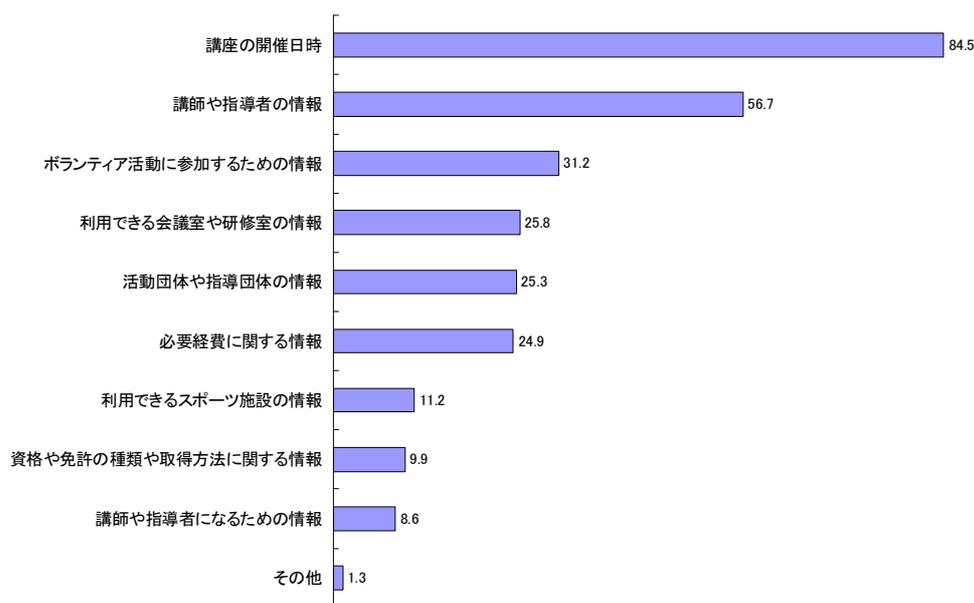


図 4-4 生涯学習を進める上でほしい情報

図 4-4 にみるように、もっとも回答が多かったのが「講座の開催日時」で 84.5%にのぼる。「講師や指導者の情報」がそれに続き 5 割を越しているが、「ボランティア活動に参加するための情報」が 3 割強で、あとはいずれも 3 割を切っている。県内でももっとも受講数が多い県民カレッジの参加者を対象としているが、「講師や指導者になるための情報」がほしいと答えたのは 8.6%に過ぎない。

他の質問項目からもうかがえることだが、多くの講座に参加し、ふるさと学士・修士・博士などの称号を得たからといって、そこからすぐ教える側に回ろうとする人はそれほど多くはないようだ。

5. 生涯学習でほしい場や機会

図 4-5 はどのような場や機会がほしいかをたずねた結果を示したものである。ここでもまずは「余暇を有意義に過ごせる学ぶ場や機会」が高率(77.2%)であるが、「人助け、地域社会に役立つための学びの場」という回答も半数を超え、地域への貢献の欲求は旺盛とみることができる。

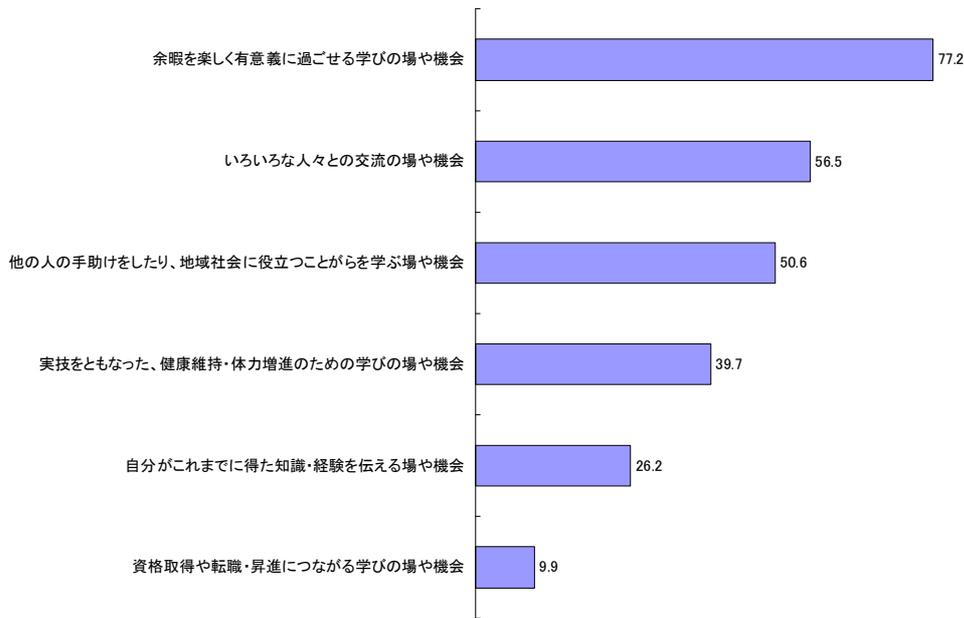


図 4-5 生涯学習でほしい場や機会

注目したいのは、「いろいろな人々との交流の場」を求める声が強いことで、56.5%の支持がある。「自分がこれまでに得た知識・経験を伝える場」が26.2%に過ぎないことからすれば、この「交流」は学び、また伝えるという相互教育—学習のためのものというより、楽しみのための交流であるようだ。カルチャー・センターなどでは、講座以外にも時間帯でも居心地よく過ごせる場所を用意し、受講生同士の交流ができるようにして人気だが、自治体や教育委員会、大学などが開催する講座・教室でも、居場所・交流の場をつくる工夫が必要かもしれない。

6. 学習の方法・形態

回答者にとって望ましい学習方法・形態についてもたずねた。

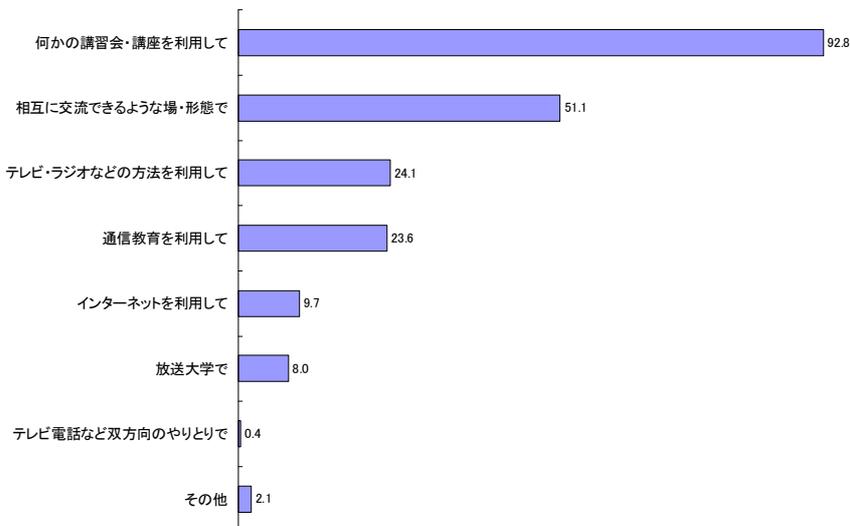


図 4-6 学習の方法・形態

図 4-6 からわかるように、やはり「講習会・講座」という形態の人气が高く、8割を超える支持を得ている。さきに交流についてふれたが、方法・形態についても「相互に交流できる」ということが重要視されている（51.1%）。

テレビ・ラジオ、通信教育、インターネット、放送大学など遠隔教育メディアについては、この2つに比べるといずれも低い支持率にとどまった。

7. 望ましい学習の場所

図 4-7 は、どんな場所で学習したいかについての回答をグラフ化したものである。

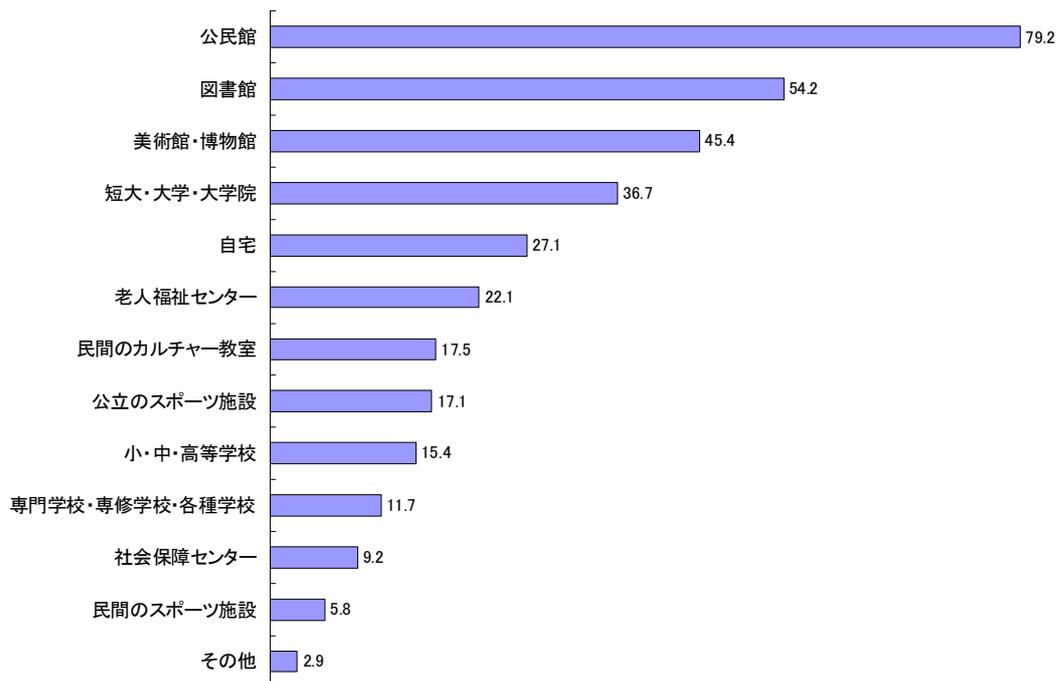


図 4-7 望ましい学習の場所

「公民館」という回答が圧倒的に多く約8割を占める。受講者が望む形態である、講座・教室が数多く開かれ、かつ交流の場ともなっているという点が公民館の強みだろう。また、先にあげた「受講したい講座が近くで開かれない」という問題点の裏返しで、公民館が身近な場所にある学習の場であることも支持の理由だろう。図書館は「交流」という点では公民館に及ばないが、それに次ぐ54.2%という支持を集めている。

3位の「美術館・博物館」（45.4%）の次にくるのが「大学」で36.7%という支持率は意外に高い数字ではないだろうか。もっとも、現に「学習している」という割合ではなく、「学習したい」という設問であるから期待値と考えた方がよいだろうか。いずれにしても、この期待にこたえるためには大学の方も積極的な働きかけと充実した学習機会の提供が大事になってくる。

8. 学習成果の活用・貢献のための条件

学習成果を活用し、地域や社会に貢献するためには何が必要かについてもたずねた。

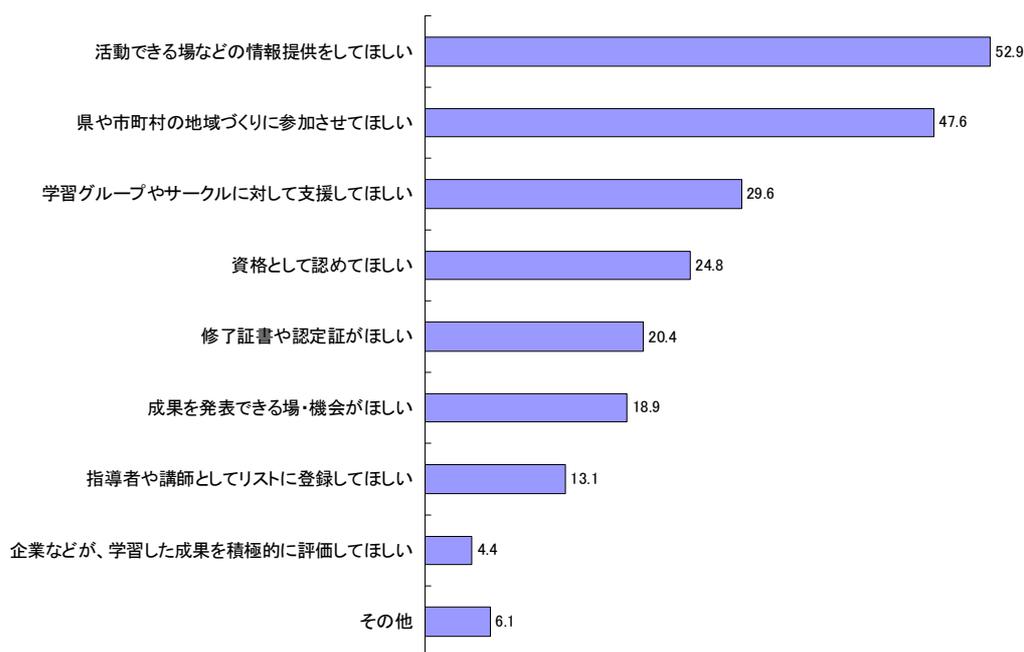


図 4-8 学習成果の活用・貢献のための条件

「活動できる場」についての情報提供を求める声をもっとも多く半数以上の回答を集めた。「県や市町村の地域づくりへの参加」という回答も多く（47.6%）、活躍できる場を用意し、広報に工夫をすれば学習成果を活かしたいという人を取り込む余地があると感じた。

「資格として認めてほしい」という回答は 24.8%を占め一定のニーズがあるようだが、一方で「企業による学習成果の評価」を求める声はほとんどない（4.4%）。今回の調査対象においては、就職・転職のための「資格」というより、ふるさと学士といった認証の意味合いか、あるいは地域づくりやボランティアを行うための資格という意味づけなのかもしれない。

いずれにしても、学習成果をどう活用していくか、地域や社会への貢献にどうつなげていくかは、生涯学習社会構築のための大きな課題であり、この質問において上位を占めた項目には対応が必要であろう。

9. 活動の状況と希望分野

最近1年間の活動の状況を分野別にたずね、合わせて今後取り組みたい分野についてもきいた。両者の回答をグラフ化したものが図 4-9 である。

「自分の知識や特技を他人の学習に役立てる」「地域を住み良くする」といった活動については約3割が「最近やった」と答えているが、「今後取り組みたい」という答はそれほど多くない。

逆に、「やったことがある」を「今度取り組みたい」が大きく上回る項目として、「自然保護など環境をよくする活動」（26.3→34.6%）、「図書館や学校での読み聞かせボランティア」（7.2→21.7%）、「美術館・博物館・観光名所などの案内」（10.3→20.5%）、「国際協力・援助」（6.3→11.4%）が注目される。これらの分野に関しては、県民の潜

在的なニーズに対応が追いついていないということが出来るが、逆に今後大きく展開する可能性ももっている。

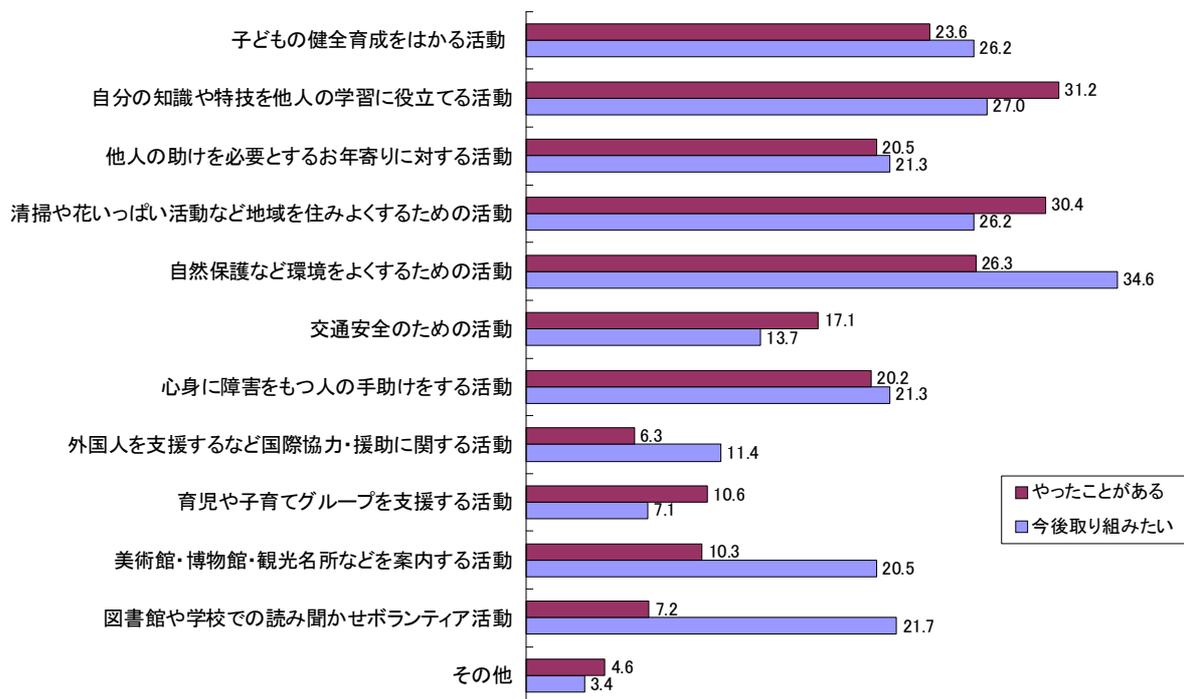


図 4-9 最近の活動の状況と希望分野

10. 県民カレッジに望むこと

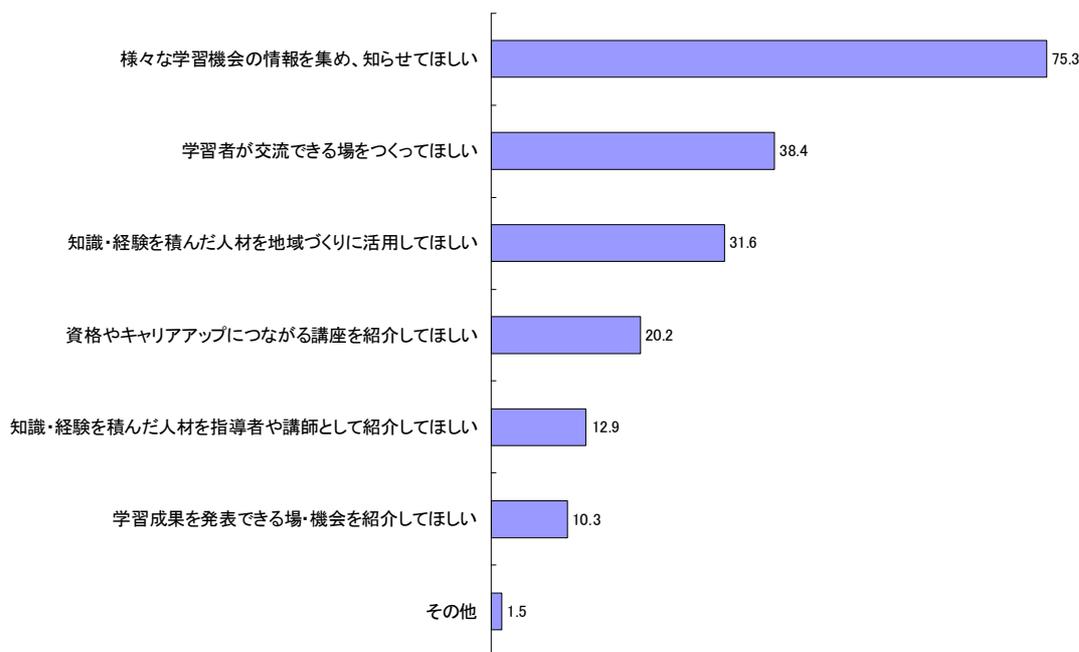


図 4-10 県民カレッジに望むこと

最後に、県民カレッジについての希望をきいた。図 4-10 にみるように、これまでの質問に対する回答を同様の傾向があり、まず「学習機会の情報収集・提供」を求める声が圧倒的に多く（75.3%）、「交流できる場をつくる」（38.4%）、「知識・経験を積んだ人材を地域づくりに活用してほしい」（31.6%）が続く。県民カレッジはすでに「情報収集・提供」についてはかなり実績を積んできているので、「交流の場づくり」「地域づくりへの活用」に焦点を当てた活動が望まれているといえる。

第5章

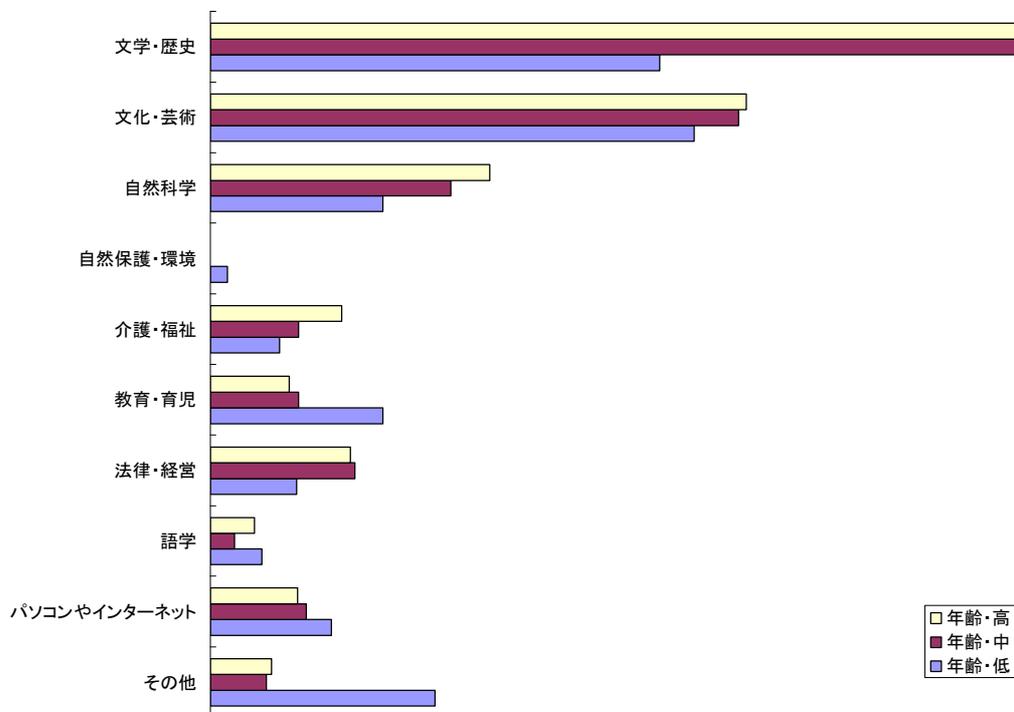
受講者年齢別の分析

第1章「回答者の属性」にみるように、継続的受講者である称号付与者が主な対象であるため、回答者は高齢者が。ただ、同じ称号付与者であってもどの年齢層に属するかで、受講傾向や生涯学習に関する意識、抱える問題が異なってくるのではないかと考えられる。

ここでは、受講者の年齢を基準に3つのグループに分け、各質問項目に関してクロス集計を行い、上述の問題を検討することにする。65歳までを「低」（n=50）、66～72歳までを「中」（n=110）、73歳以上が「高」（n=103）と3つにグループ分けした。受講歴別に受講動機各項目の回答率をまとめ、グラフと表にしたものが本章で用いる図表群である（表中左から3列の数字は%、右欄のp.は有意確率）。

1. 年齢別・受講経験と希望分野

図表にみるように、全体的に年齢が高いグループの方が各分野の受講経験が多く、特に「文学・歴史」について大きな違いがある（統計的有意差あり・下表参照）。

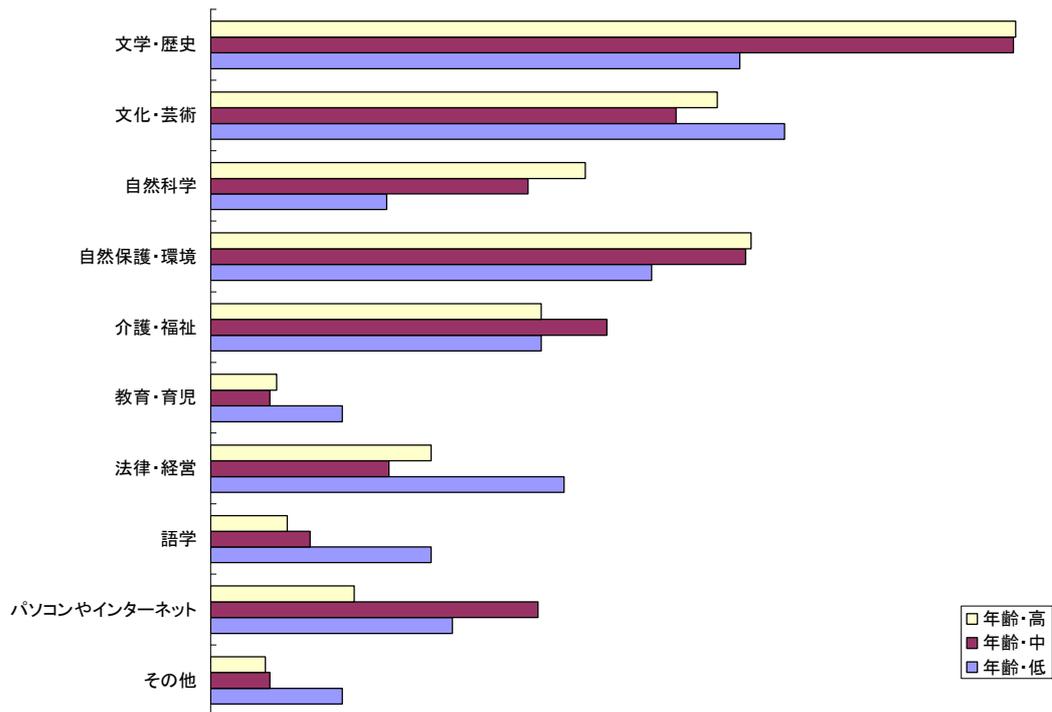


Q8 受講経験	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
文学・歴史	52.0	94.4	93.9	.000***
文化・芸術	56.0	61.1	62.0	.784
自然科学	20.0	27.8	32.3	.286
自然保護・環境	2.0	0.0	0.0	.023*
介護・福祉	8.0	10.2	15.2	.359
教育・育児	20.0	10.2	9.1	.120
法律・経営	10.0	16.7	16.2	.522
語学	6.0	2.8	5.1	.577
パソコンやインターネット	14.0	11.1	10.1	.755
その他	26.0	6.5	7.1	.000***

(p.はカイ自乗検定による有意確率. *** p.<.001 ** p.<.01 * p.<.05 + p.<.1)

図表 5-1 年齢別・受講経験

しかし、「自然保護・環境」については、逆に年齢が低いグループの方が受講経験がある（有意差あり）。統計的に有意な差とは言えないものの、「教育・育児」についても年齢・低グループに受講経験が多い。「自然保護・環境」が比較的新しいテーマであり最初は若い世代に関心を持たれたこと、また、若い世代では、教育・育児が生活課題となっている人が多いということで、やはり回答者のライフステージを反映した結果であると思われる。



Q9 希望分野	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
文学・歴史	49.0	74.3	74.5	.002**
文化・芸術	53.1	43.1	46.9	.508
自然科学	16.3	29.4	34.7	.068*
自然保護・環境	40.8	49.5	50.0	.529
介護・福祉	30.6	36.7	30.6	.593
教育・育児	12.2	5.5	6.1	.279
法律・経営	32.7	16.5	20.4	.069+
語学	20.4	9.2	7.1	.039*
パソコンやインターネット	22.4	30.3	13.3	.013*
その他	12.2	5.5	5.1	.214

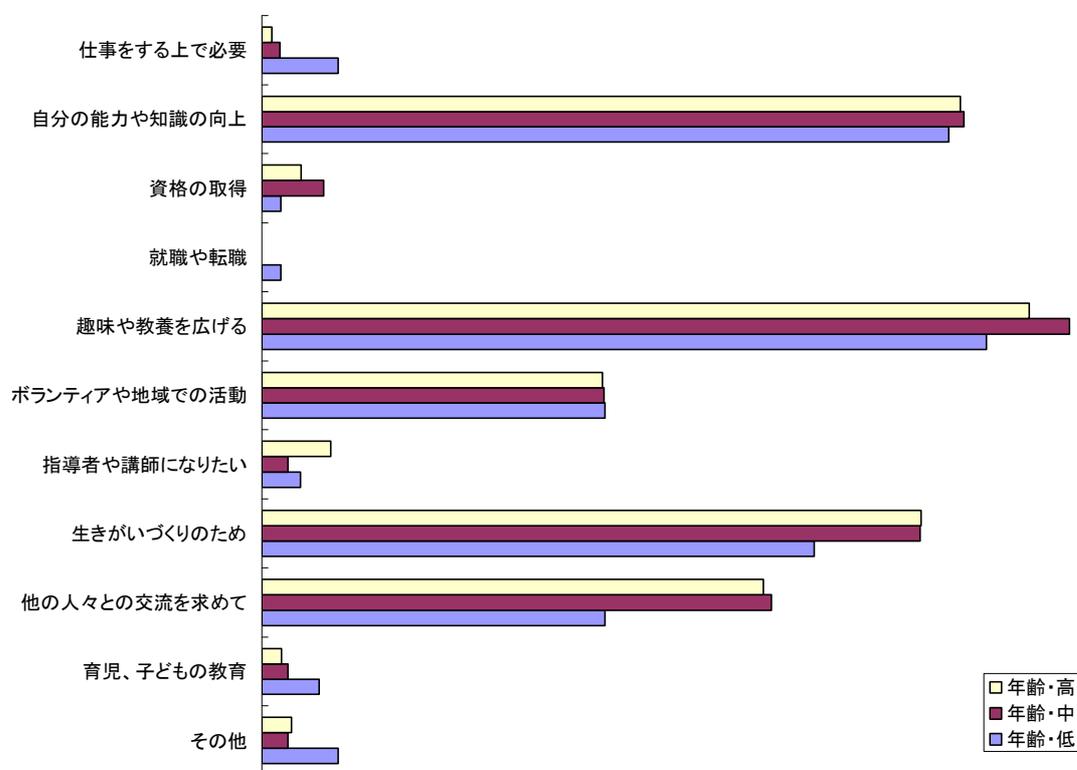
図表 5-2 年齢別・希望分野

図表 5-2 をみると、希望分野においても「文学・歴史」と「教育・育児」については同じ傾向であるが、他の項目については若干の違いがある。「自然保護・環境」については、全体的に回答が高く、中でも上の世代でむしろ希望が多くなっている。今後は年齢の高い層も想定した講座開設がまたれる。

「法律・経営」「語学」については、若い世代の方で希望する人が多い。絶対数は少ないものの、就職・転職を考慮した受講希望があるのかもしれないが、動機については次節でみておきたい。

2. 年齢別・受講動機

図表 5-3 にみるように、「仕事をする上で必要」（有意差あり）「就職や転職」それから「育児・子どもの教育」については低い年齢層の方で回答率が高い。逆に「他の人々との交流を求めて」については高い年齢グループの方で動機としてあげられている。

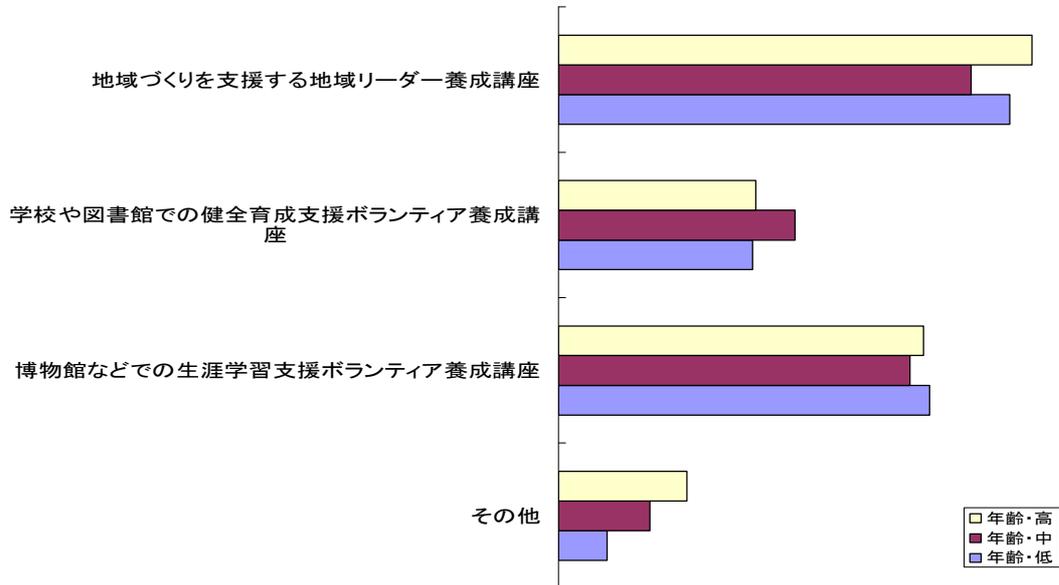


Q10.受講動機	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
仕事をする上で必要	8.5	2.0	1.1	.037*
自分の能力や知識の向上	76.7	78.4	78.0	.995
資格の取得	2.1	6.9	4.4	.442
就職や転職	2.1	0.0	0.0	.127
趣味や教養を広げる	80.9	90.2	85.7	.280
ボランティアや地域での活動	38.3	38.2	38.0	.710
指導者や講師になりたい	4.3	2.9	7.7	.308
生きがいづくりのため	61.7	73.5	73.6	.272
他の人々との交流を求めて	38.3	56.9	56.0	.081+
育児、子どもの教育	6.4	2.9	2.2	.413
その他	8.5	2.9	3.3	.249

図表 5-3 年齢別・受講動機

3. 年齢別・主催希望に関する希望

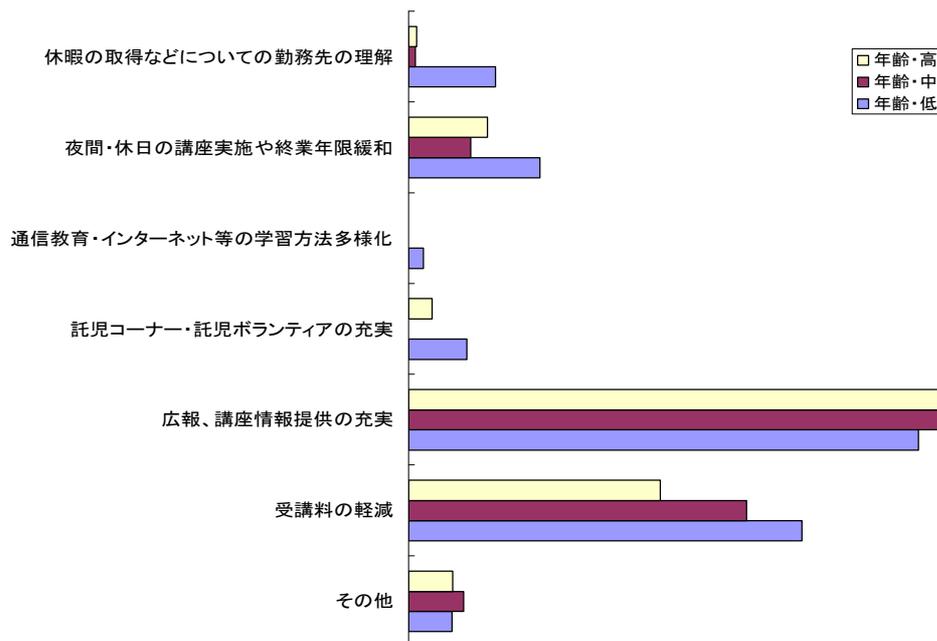
図表 5-4 にみるように、県民カレッジの主催希望については、若干の違いはあるものの、特に大きな差はみられなかった。



Q11.主催講座に関する希望	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
地域づくりを支援する地域リーダー養成講座	63.6	58.1	66.7	.515
学校や図書館での健全育成支援ボランティア養成講座	27.3	33.3	27.8	.666
博物館などでの生涯学習支援ボランティア養成講座	52.3	49.5	51.4	.945
その他	6.8	12.9	18.1	.222

図表 5-4 年齢別・主催講座に関する希望

4. 年齢別・学習に必要な条件



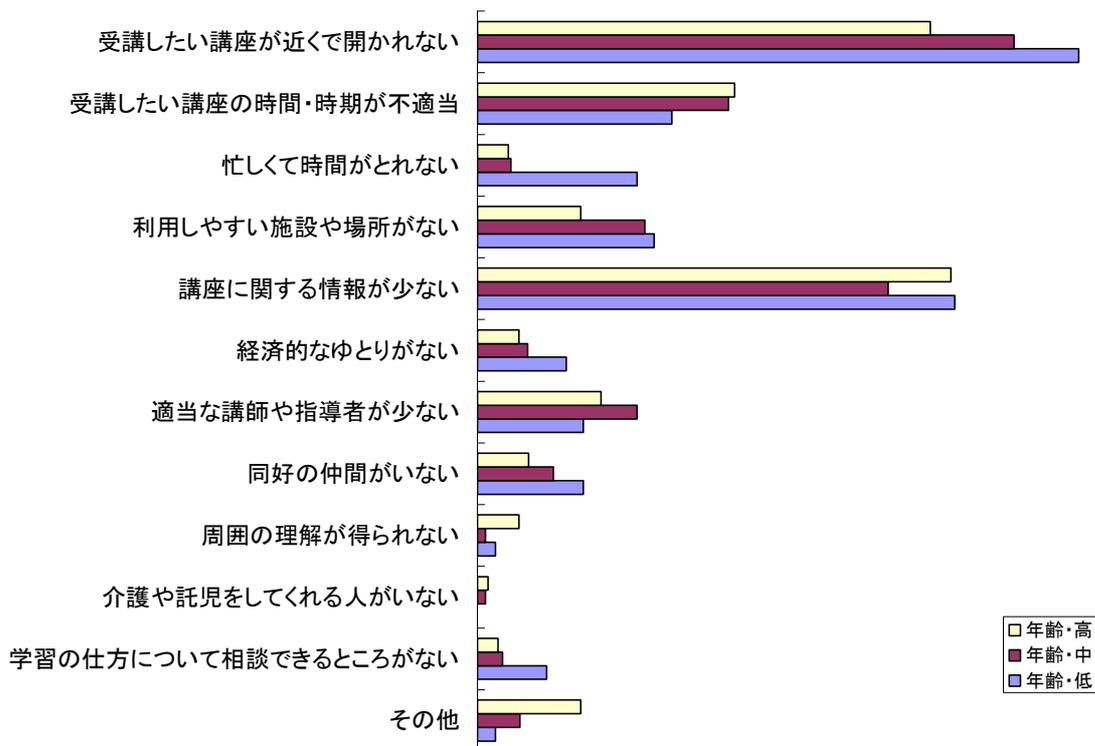
Q14.学習に必要な条件	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
休暇の取得などについての勤務先の理解	13.0	1.0	1.2	.000***
夜間・休日の講座実施や終業年限緩和	19.6	9.3	11.8	.212
通信教育・インターネット等の学習方法多様化	2.2	0.0	0.0	.157
託児コーナー・託児ボランティアの充実	8.7	0.0	3.5	.018*
広報、講座情報提供の充実	76.1	89.7	83.5	.102
受講料の軽減	58.7	50.5	37.6	.050*
その他	6.5	8.2	6.6	.630

図表 5-5 年齢別・学習に必要な条件

学習に必要な条件については、年齢別の違いがみられた。図表 5-5 にみるように、「勤務先の理解」は、やはり仕事に就いている人が多い若い年齢層で回答率が高い。関連した項目で、「夜間・休日での講座実施」「託児コーナー・ボランティアの充実」「受講料の軽減」についても若い年齢層で支持が高い。今回は調査対象に若い世代があまり含まれていないが、こうした条件は講座・教室への参加を大きく左右するものといえる。

5. 年齢別・学習をする上での問題点

学習をする上での問題点についても、いくつか差がある項目があった。「忙しくて時間がとれない」（有意差あり）「受講したい講座が近くで開かれない」「経済的なゆとりがない」「同好の仲間がいない」といった項目は、若い年齢層で強くあげられた問題点である。

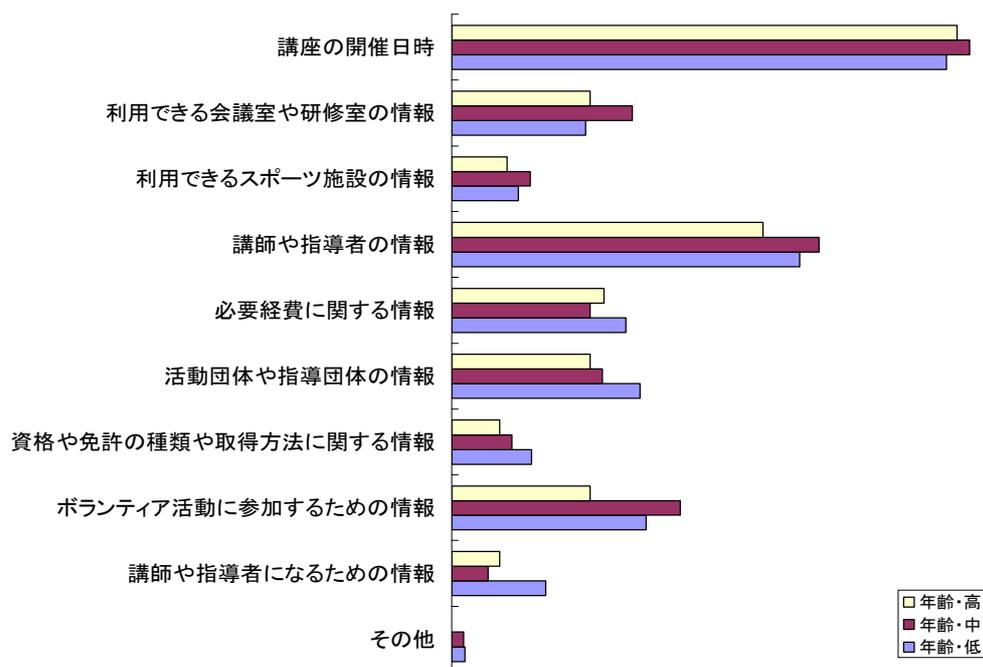


Q15.学習をする上での問題点	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
受講したい講座が近くで開かれない	73.9	66.0	55.7	.105
受講したい講座の時間・時期が不適当	23.9	30.9	31.6	.622
忙しくて時間がとれない	19.6	4.1	3.8	.001**
利用しやすい施設や場所がない	21.7	20.6	12.7	.299
講座に関する情報が少ない	58.7	50.5	58.2	.503
経済的なゆとりがない	10.9	6.2	5.1	.439
適当な講師や指導者が少ない	13.0	19.6	15.2	.561
同好の仲間がいない	13.0	9.3	6.3	.446
周囲の理解が得られない	2.2	1.0	5.1	.252
介護や託児をしてくれる人がいない	0.0	1.0	1.3	.758
学習の仕方について相談できるところがない	8.5	3.1	2.5	.481
その他	2.2	5.2	12.7	.052+

図表 5-6 年齢別・学習をする上での問題点

6. 年齢別・生涯学習のためほしい情報

「講座の開催日時」に関する情報は、全体として高い回答率を得たものだが、年齢別には大きな違いがみられなかった。有意な差があったのは「ボランティア活動に参加するための情報」は、年齢別・中のグループで希望する率が高く、ボランティア・デビューをする退職直後に属する世代においてもっとも必要とされる情報といえるかもしれない。



Q16.生涯学習のためほしい情報	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
講座の開催日時	82.2	86.0	83.9	.830
利用できる会議室や研修室の情報	22.2	30.0	23.0	.454
利用できるスポーツ施設の情報	11.1	13.0	9.2	.713
講師や指導者の情報	57.8	61.0	51.7	.438
必要経費に関する情報	28.9	23.0	25.3	.748
活動団体や指導団体の情報	31.3	25.0	23.0	.592
資格や免許の種類や取得方法に関する情報	13.3	10.0	8.0	.628
ボランティア活動に参加するための情報	32.3	38.0	23.0	.084+
講師や指導者になるための情報	15.6	6.0	8.0	.161
その他	2.2	2.0	0.0	.399

図表 5-7 年齢別・生涯学習のためほしい情報

7. 年齢別・ほしい場や機会

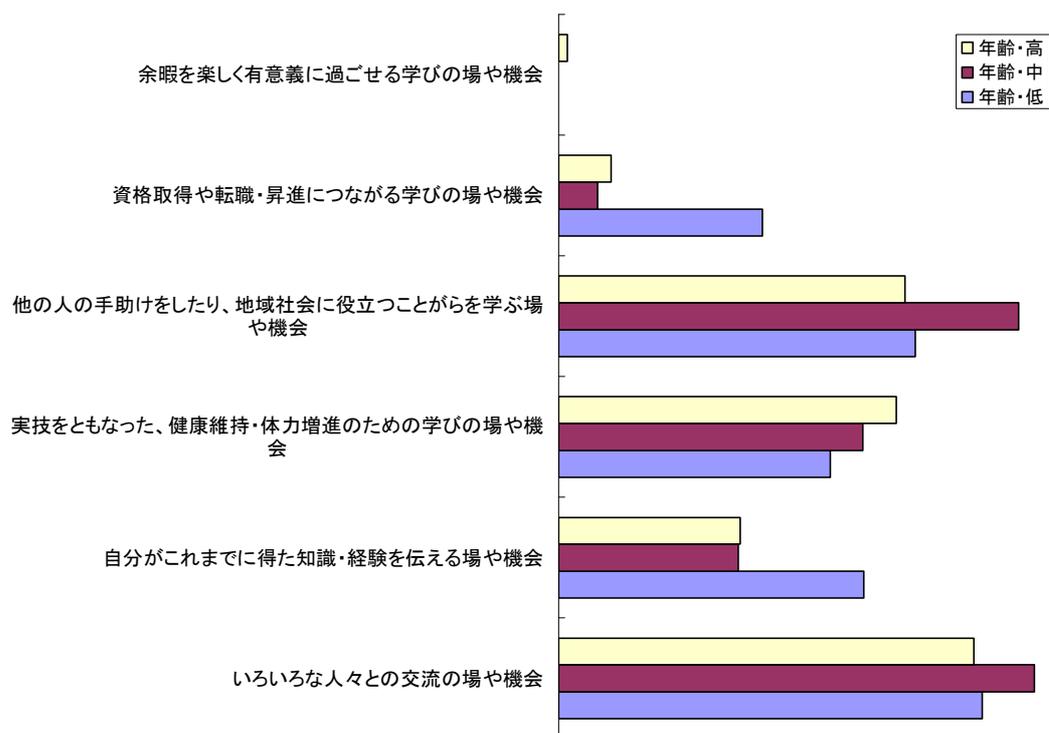
次に、ほしい場や機会について年齢層別に傾向をみることにする。

「資格取得や転職・昇進につながる学びの場や機会」「これまで得た知識・経験を伝える学びの場や機会」（有意差あり）は、仕事に就いている人が多い若い年齢層でもっとも支持されている項目である。

「他の人の手助けをしたり、地域社会に役立つことがらを学ぶ場や機会」（有意差あり）については、年齢層・中のグループで支持されている。前節でもふれたが、この年齢層は、退職直後にあたる世代であり、ボランティアや地域へデビューする人が多い世代だと考えられる。

「健康維持・体力増進のための学びの場や機会」については有意な差とまではいかないが、年齢層が高くなるほど選ばれている項目である。

以上、図表 5-8 でわかることは、「ほしい場や機会」といっても、年齢層によってかなりその比重が異なり、受講者の属性に応じた対応をすることが大事だということである。



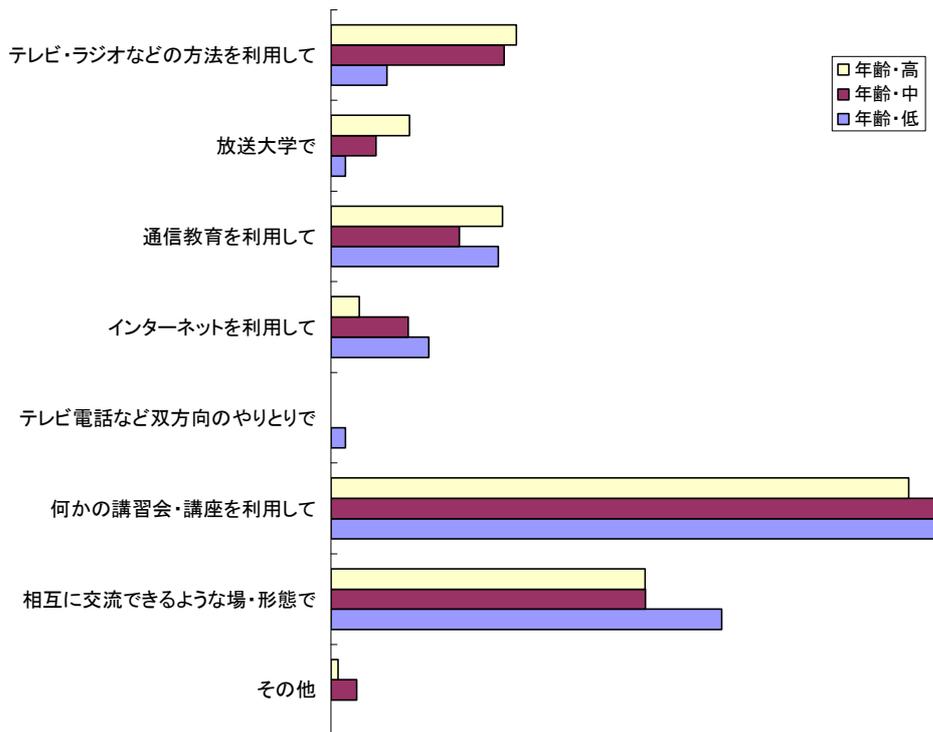
Q17.ほしい場や機会	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
余暇を楽しく有意義に過ごせる学びの場や機会	0.0	0.0	1.1	.287
資格取得や転職・昇進につながる学びの場や機会	26.1	5.0	6.7	.000***
他の人の手助けをしたり、地域社会に役立つことがらを学ぶ場や機会	45.7	59.0	44.4	.099+
実技をともなった、健康維持・体力増進のための学びの場や機会	34.8	39.0	43.3	.613
自分がこれまでに得た知識・経験を伝える場や機会	39.1	23.3	23.3	.087+
いろいろな人々との交流の場や機会	54.3	61.0	53.2	.529

図表 5-8 年齢別・ほしい場や機会

8. 年齢別・学習方法・形態

学習方法・形態については「講習会・講座」「交流できる場・形態」の支持が全体的に高かったが、年齢別には大きな違いはみられなかった。

年齢別での差が大きかったのは、以下の項目である。「テレビ・ラジオを利用して」（有意差あり）「放送大学で」については、高い年齢層でより支持率が高く、「インターネットを利用して」については低い年齢層の支持率が高い。学習方法・形態についても、年齢層に応じた対応が必要になってくるといえそうだ。



Q18.学習方法・形態	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
テレビ・ラジオなどの方法を利用して	8.7	27.0	28.9	.023*
放送大学で	2.2	7.0	12.2	.110
通信教育を利用して	26.1	20.0	26.7	.512
インターネットを利用して	15.2	12.0	4.4	.081+
テレビ電話など双方向のやりとりで	2.2	0.0	0.0	.126
何かの講習会・講座を利用して	95.7	94.7	90.0	.400
相互に交流できるような場・形態で	60.9	49.0	48.9	.349
その他	0.0	4.0	1.1	.208

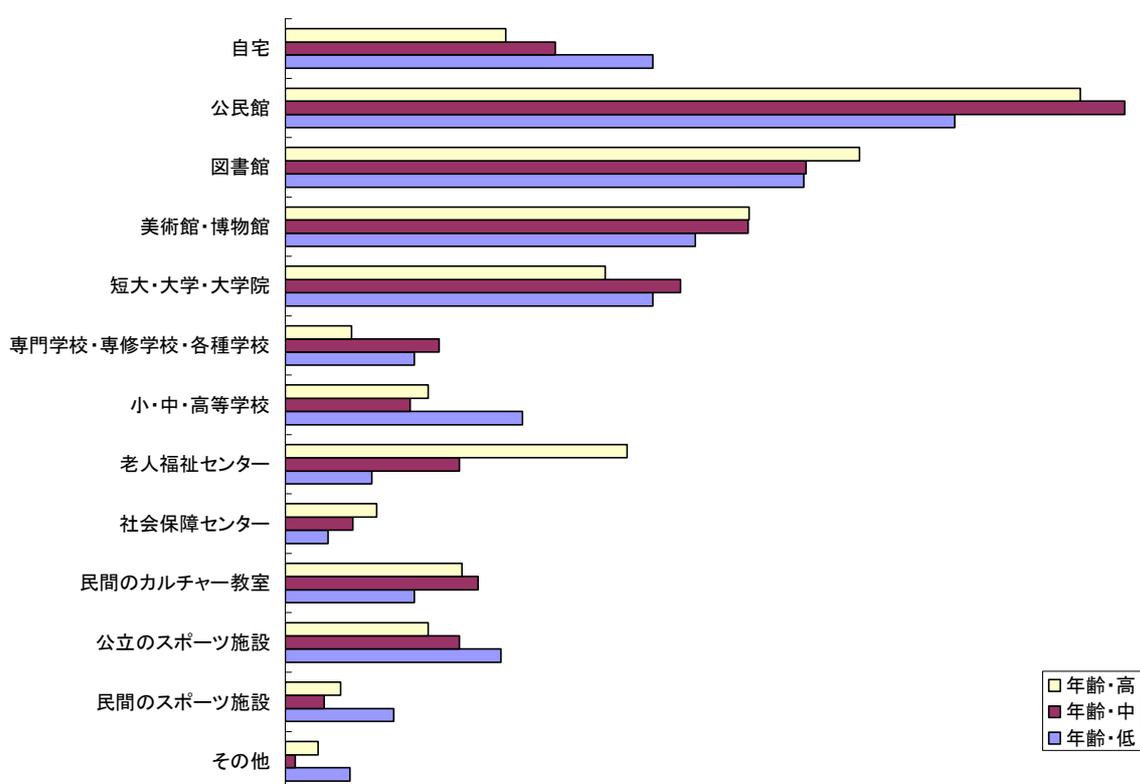
図表 5-9 年齢別・学習方法・形態

9. 年齢別・学習したい場所

学習したい場所についての質問で、年齢別に差がみられたのは次の項目である。

「公民館」は上の年齢層（特に退職直後の層を含む中グループ）で支持が高かった（有意差あり）。年齢層・高で特に支持が高かったのは「老人福祉センター」（有意差あり）で、「社会保障センター」も同様の傾向である。

若い年齢層で回答率が高かったのは「自宅」「スポーツ施設」であり、やはりそれぞれの年齢層によって学習をしたい場所、あるいはしやすい場所が少しずつ違っているようである。



Q19.学習したい場所	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
自宅	37.0	27.2	22.2	.188
公民館	67.4	84.5	80.0	.058+
図書館	52.2	52.4	57.8	.716
美術館・博物館	41.3	46.6	46.7	.809
短大・大学・大学院	37.0	39.8	32.2	.548
専門学校・専修学校・各種学校	13.0	15.5	6.7	.153
小・中・高等学校	23.9	12.6	14.4	.200
老人福祉センター	8.7	17.5	34.4	.001**
社会保障センター	4.3	6.8	9.2	.083+
民間のカルチャー教室	13.0	19.4	17.8	.639
公立のスポーツ施設	21.7	17.5	14.4	.562
民間のスポーツ施設	10.9	3.9	5.6	.242
その他	6.5	1.0	3.3	.171

図表 5-10 年齢別・学習したい場所

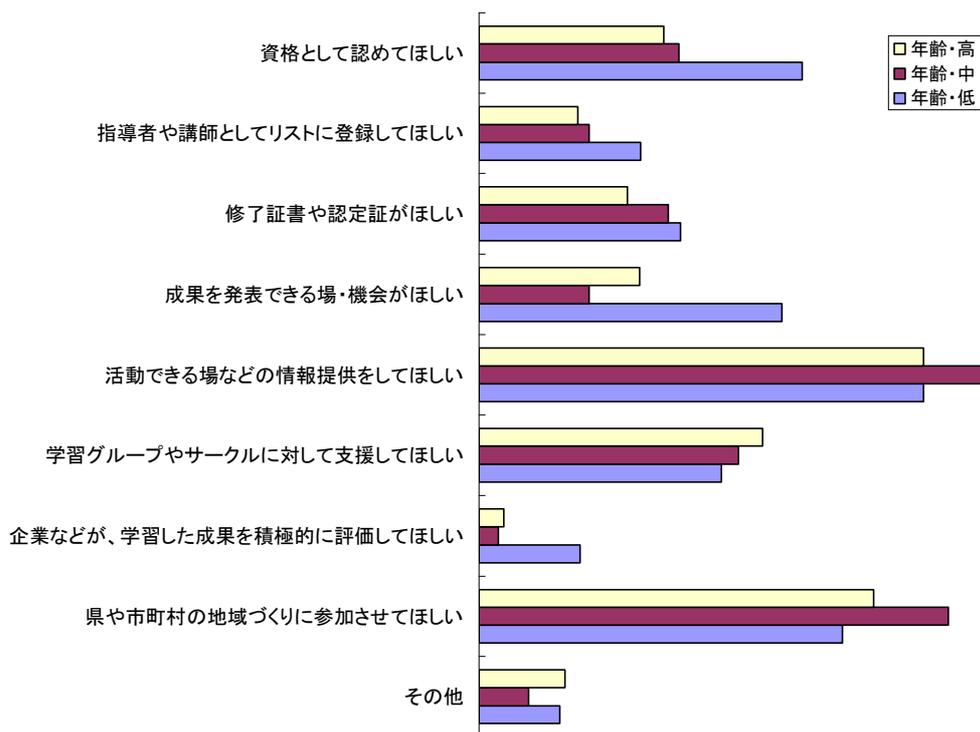
10. 年齢別・活用・貢献のための条件

学習成果の活用あるいは貢献のための条件についての質問では、以下のような年齢別傾向がみられた。

特に若い年齢層の支持が高かったのは、「企業などが学習成果を積極的評価してほしい」「成果を発表できる場・機会がほしい」（以上有意差有り）「資格として認めてほしい」などで、他の項目についてもこの年齢層の回答率が高いものが多い。この年齢層に関しては、学習成果の評価、認定、活用のためのサポートが重要な課題だと感じる。

有意差はみられないが、年齢層・中グループが他より高い支持率を示したのが、「活動できる場の情報提供」「自治体の地域づくりへの参加」であり、退職直後のこの世代に対しては、活動の場づくりをし、広報する行政サポートが重要であろう。

年齢層・高のグループにおいては、「学習グループやサークルへの支援」を訴える声が大きく、いまある交流および学習成果の活用の場をなくさず、継続するような支援が必要となってくる。



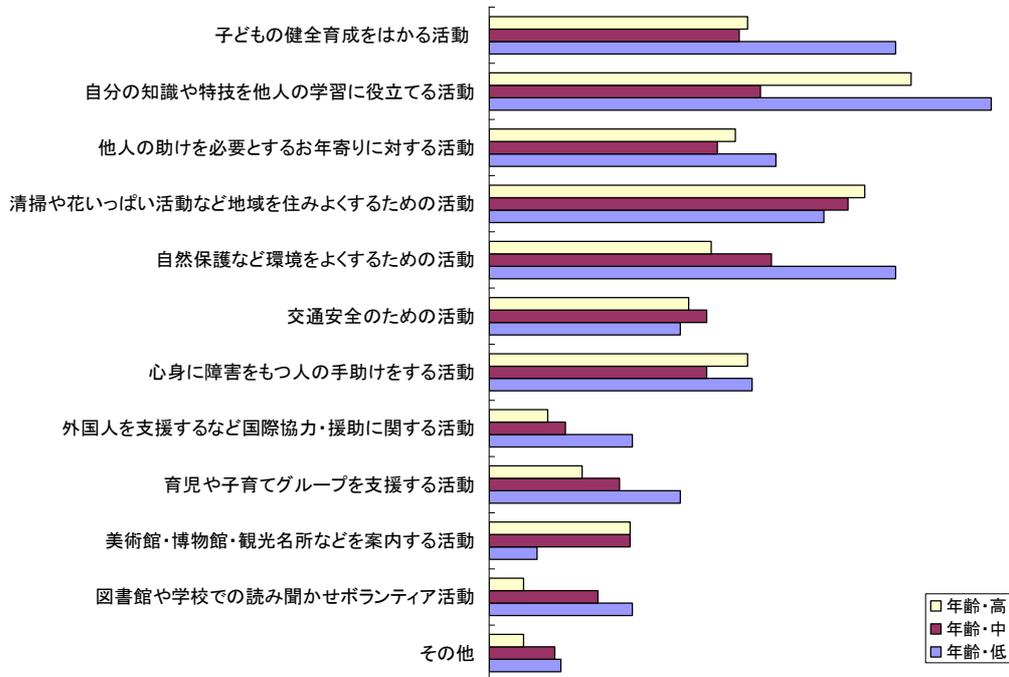
Q20.活用・貢献のための条件	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
資格として認めてほしい	36.4	22.5	20.8	.135
指導者や講師としてリストに登録してほしい	18.2	12.4	11.1	.526
修了証書や認定証がほしい	22.7	21.3	16.7	.668
成果を発表できる場・機会がほしい	34.1	12.4	18.1	.011*
活動できる場などの情報提供をしてほしい	50.0	57.3	50.0	.583
学習グループやサークルに対して支援してほしい	27.3	29.2	31.9	.858
企業などが、学習した成果を積極的に評価してほしい	11.4	2.2	2.8	.038*
県や市町村の地域づくりに参加させてほしい	40.9	52.8	44.4	.361
その他	9.1	5.6	9.7	.588

図表 5-11 年齢別・活用・貢献のための条件

1.1. 年齢別・活動歴と希望活動分野

最近どんな活動をしているかをたずねた質問については、およそ以下のような年齢別傾向がみられた。

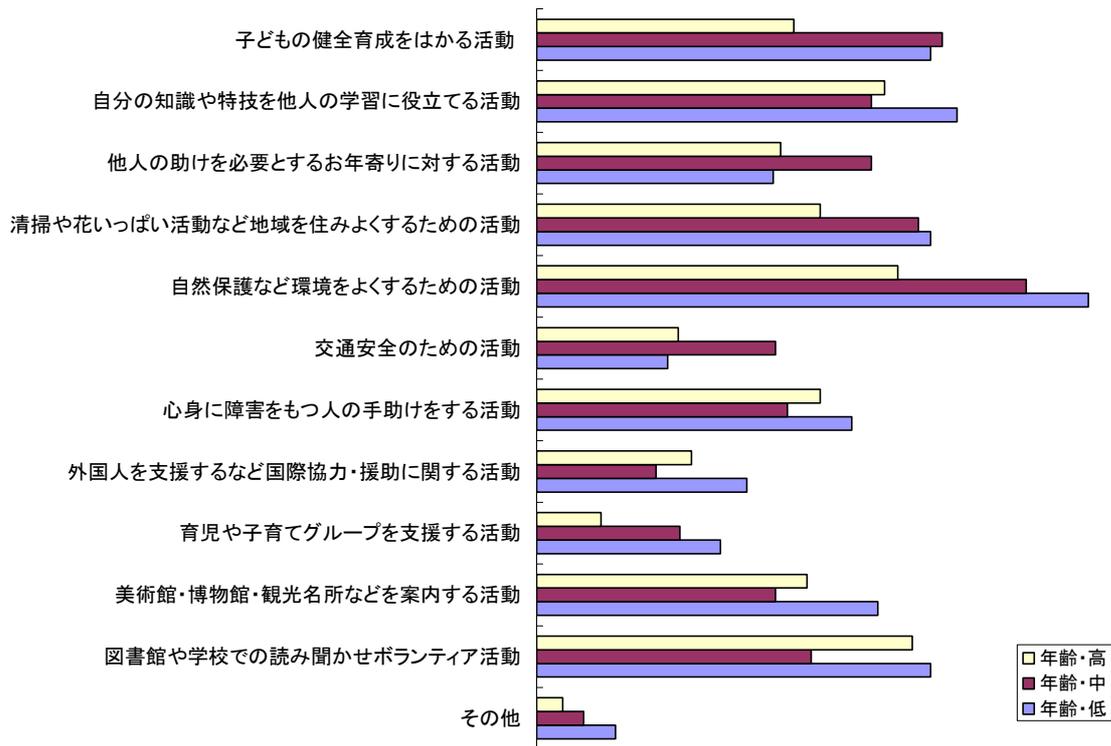
どの項目でも、若い年齢層の回答が比較的高かった。特に「知識や特技を他人の学習に役立てる」「読み聞かせボランティア」については有意な差がみられた。



Q21A.活動歴	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
子どもの健全育成をはかる活動	34.0	20.9	21.6	.160
自分の知識や特技を他人の学習に役立てる活動	42.0	22.7	35.3	.028*
他人の助けを必要とするお年寄りに対する活動	24.0	19.1	20.6	.776
清掃や花いっぱい活動など地域を住みよくなるための活動	28.0	30.0	31.4	.912
自然保護など環境をよくするための活動	34.0	23.6	18.6	.111
交通安全のための活動	16.0	18.2	16.7	.930
心身に障害をもつ人の手助けをする活動	22.0	18.2	21.6	.780
外国人を支援するなど国際協力・援助に関する活動	12.0	6.4	4.9	.257
育児や子育てグループを支援する活動	16.0	10.9	7.8	.309
美術館・博物館・観光名所などを案内する活動	4.0	11.8	11.8	.265
図書館や学校での読み聞かせボランティア活動	12.0	9.1	2.9	.080+
その他	6.0	5.5	2.9	.592

図表 5-12 年齢別・活動歴

今後どんな活動に取り組みたいかをたずねた質問についても、有意差まではいかないものの、同様の年齢別傾向がみられ、若い年齢層の回答が比較的高かった。

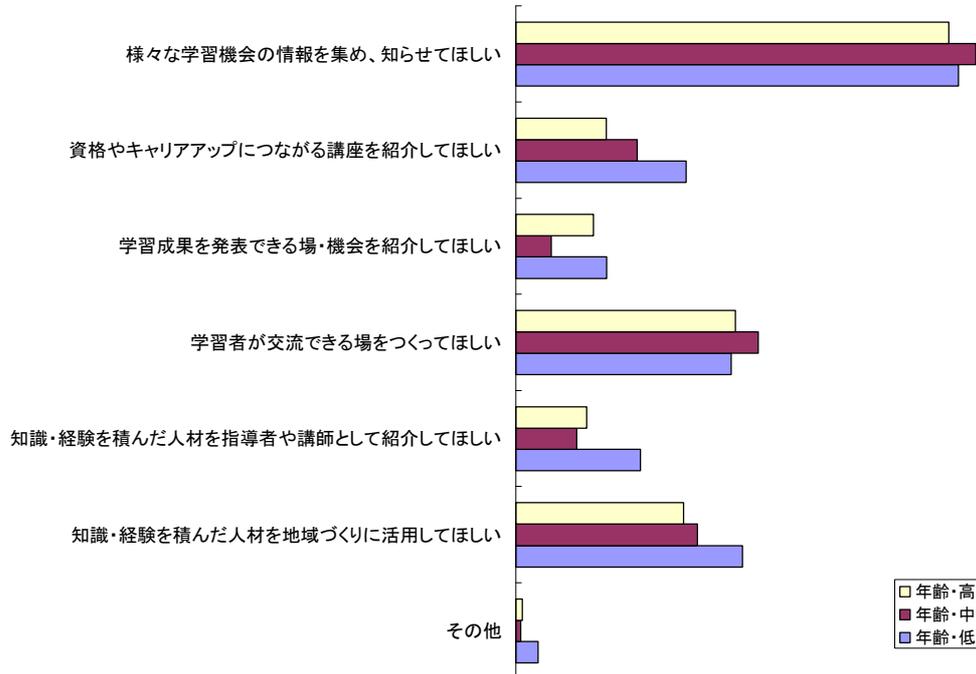


Q21B.今後取り組みたいこと	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
子どもの健全育成をはかる活動	30.0	30.9	19.6	.141
自分の知識や特技を他人の学習に役立てる活動	32.0	25.5	26.5	.677
他人の助けを必要とするお年寄りに対する活動	18.0	25.5	18.6	.389
清掃や花いっぱい活動など地域を住みよくするための活動	30.0	29.1	21.6	.373
自然保護など環境をよくするための活動	42.0	37.3	27.5	.146
交通安全のための活動	10.0	18.2	10.8	.205
心身に障害をもつ人の手助けをする活動	24.0	19.1	21.6	.766
外国人を支援するなど国際協力・援助に関する活動	16.0	9.1	11.8	.442
育児や子育てグループを支援する活動	14.0	10.9	4.9	.133
美術館・博物館・観光名所などを案内する活動	26.0	18.2	20.6	.526
図書館や学校での読み聞かせボランティア活動	30.0	20.9	28.6	.269
その他	6.0	3.6	2.0	.433

図表 5-13 年齢別・希望活動分野

12. 年齢別・県民カレッジに望むこと

最後に県民カレッジに望むことについて傾向をみておく。



Q22.県民カレッジに望むこと	年齢・低	年齢・中	年齢・高	p.
様々な学習機会の情報を集め、知らせてほしい	86.7	90.1	84.8	.555
資格やキャリアアップにつながる講座を紹介してほしい	33.3	23.8	17.7	.143
学習成果を発表できる場・機会を紹介してほしい	17.8	6.9	15.2	.098+
学習者が交流できる場をつくってほしい	42.2	47.5	43.0	.770
知識・経験を積んだ人材を指導者や講師として紹介してほしい	24.4	11.9	13.9	.138
知識・経験を積んだ人材を地域づくりに活用してほしい	44.4	35.6	32.9	.428
その他	4.4	1.0	1.3	.316

図表 5-14 年齢別・県民カレッジに望むこと

有意差がみられるのは「学習成果を発表できる場をつくってほしい」という項目で、若い年齢層で支持が高い。有意な差とまではいかないが、「資格やキャリアアップにつながる講座の紹介」「知識・経験を積んだ人材を地域づくりに活用」についても、年齢層が下がるにつれて回答率が高くなっている。今後県民カレッジが若い世代にも働きかけを強めていこうとすれば、「キャリアアップ」「地域づくり」「学習成果の発表の場」がキーワードとなってくるようだ。

第6章

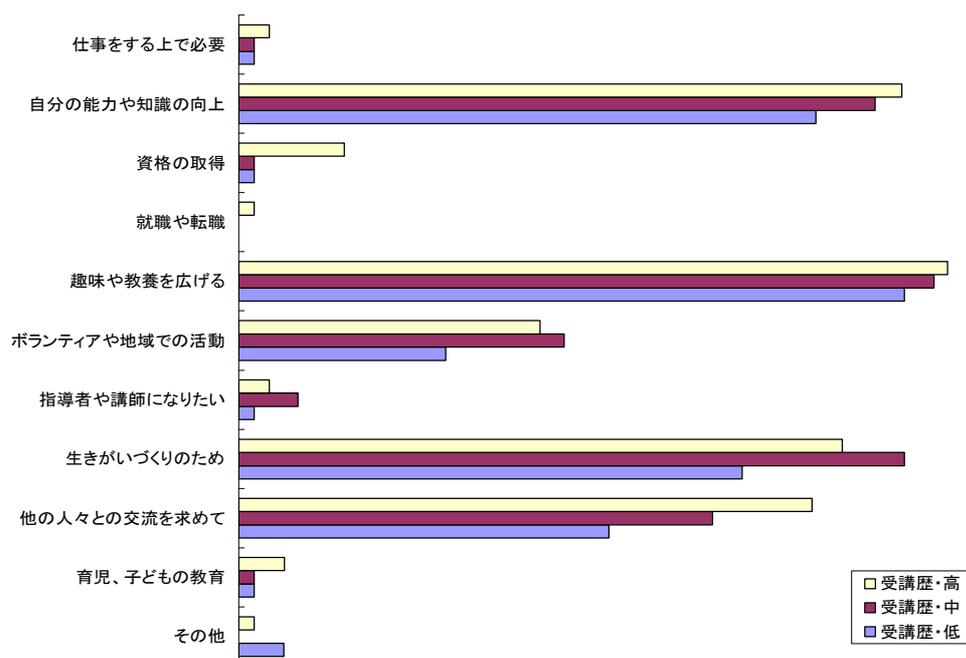
県民カレッジ受講歴別の分析

本調査は、ふるさと学士・修士・博士の称号授与者（345名）と静岡大学公開講座受講者（117名）の計462名を対象に行われた。冒頭で述べたように、調査の目的は、静岡県民の一般的な生涯学習ニーズというより、数多くの講座・学習機会に参加してきた継続的受講者（リピーター）がどのような学習ニーズを持っているか、生涯学習を進めるにあたりどのような課題を持っているのか、学習の成果をどのように活かしたいと考えているのかといった事柄を探ることにあつた。

それゆえここでは、受講者の生涯学習講座受講歴の多寡を基準に3つのグループに分け、各質問項目に関してクロス集計を行い、上述の問題を検討することにする。受講歴については、これまでの受講時間の累計が150までが「低」（n=58）、151～350が「中」（n=56）、351以上が「高」（n=55）と3つにグループ分けした。受講歴別に受講動機各項目の回答率をまとめ、グラフと表にしたものが本章で用いる図表群である（表中左から3列の数字は%、右欄のp.は有意確率）。

1. 受講歴別・受講動機と主催講座に関する希望

グラフにみるように「資格の取得」「他の人々との交流を求めて」の2つは、受講歴が高いグループの方が高い支持率を示している（統計的有意差あり・下表参照）。

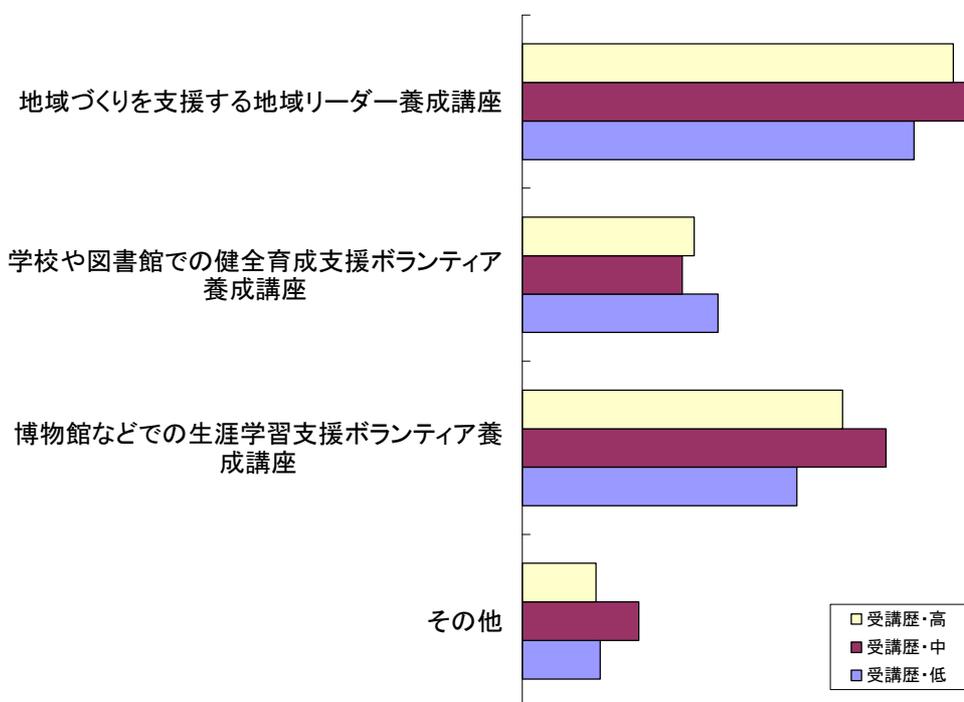


Q10.受講動機	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
仕事をする上で必要	1.9	1.9	3.8	.763
自分の能力や知識の向上	72.2	79.6	83.0	.382
資格の取得	1.9	1.9	13.2	.013*
就職や転職	0.0	0.0	1.9	.359
趣味や教養を広げる	83.3	87.0	88.7	.711
ボランティアや地域での活動	25.9	40.7	37.7	.233
指導者や講師になりたい	1.9	7.4	3.8	.356
生きがいづくりのため	63.0	83.3	75.5	.052+
他の人々との交流を求めて	46.3	59.3	71.7	.028*
育児、子どもの教育	1.9	1.9	5.7	.424
その他	5.6	0.0	1.9	.169

図表 6-1 受講歴別・受講動機

また、「生きがいづくり」についても有意な差があるが、これについては受講歴・中グループがもっとも高い支持率を示している。

主催講座に関する希望については、図表 6-2 にみるように特に有意な差が見られなかった。

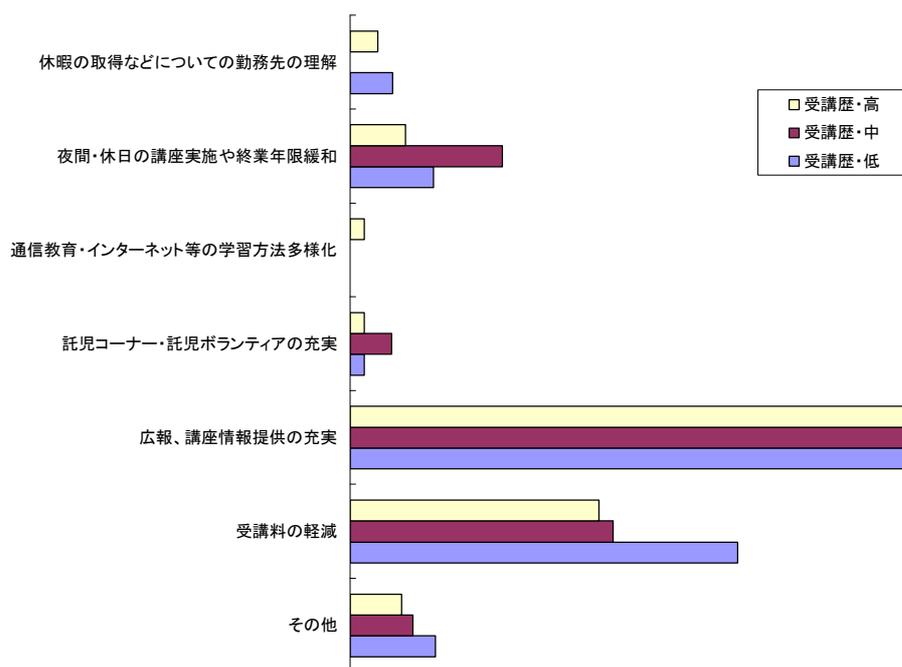


Q11.主催講座に関する希望	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
地域づくりを支援する地域リーダー養成講座	61.2	70.5	67.3	.629
学校や図書館での健全育成支援ボランティア養成講座	30.6	25.0	26.9	.826
博物館などでの生涯学習支援ボランティア養成講座	42.9	56.8	50.0	.404
その他	12.2	18.2	11.5	.596

図表 6-2 受講歴別・主催講座希望

2. 受講歴別・学習に必要な条件

図表 6-3 にみるように、この質問項目については全体的にあまり有意な差が見られなかったが、「受講料の軽減」については受講歴が少ないグループで回答が多かった。



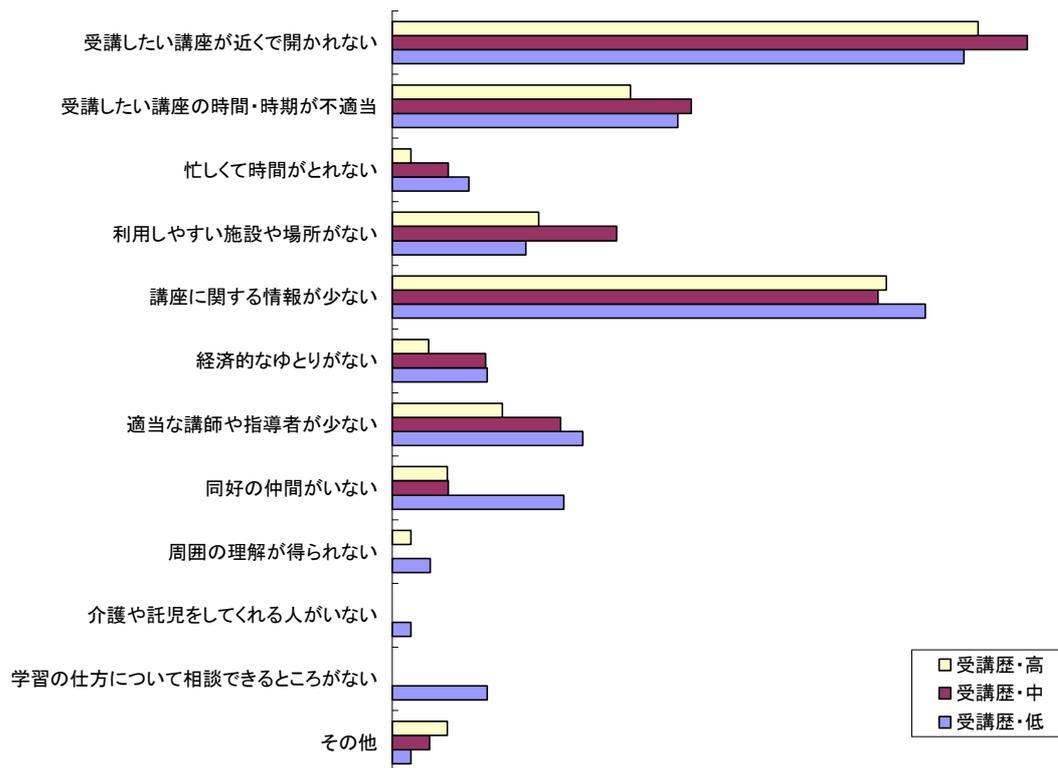
Q14.学習に必要な条件	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
休暇の取得などについての勤務先の理解	6.0	0.0	3.9	.228
夜間・休日の講座実施や終業年限緩和	11.8	21.6	7.8	.116
通信教育・インターネット等の学習方法多様化	0.0	0.0	2.0	.654
託児コーナー・託児ボランティアの充実	2.0	5.9	2.0	.437
広報、講座情報提供の充実	82.4	82.4	84.3	.955
受講料の軽減	54.9	37.3	35.3	.088+
その他	12.1	8.9	7.3	.195

図表 6-3 受講歴別・学習主催講座希望

3. 受講歴別・学習をする上での問題点

図表 6-4 にみるように、全体的にあまり有意な差が見られなかったが、「同好の仲間がない」「学習の仕方について相談できるところがない」については受講歴が少ないグループで回答が多かった（有意差あり）。

いろいろな講座を受講しながらも、孤立した学びにとどまり、仲間づくりにつながない、あるいは学習方法などについて相談できないという問題を抱えている人が、特に受講歴・低のグループにいたることがわかる。これについては、個々の講座・教室がカバーすべき問題というより、県民カレッジあるいは自治体・教育委員会で対応するのが適当な課題であるかもしれない。

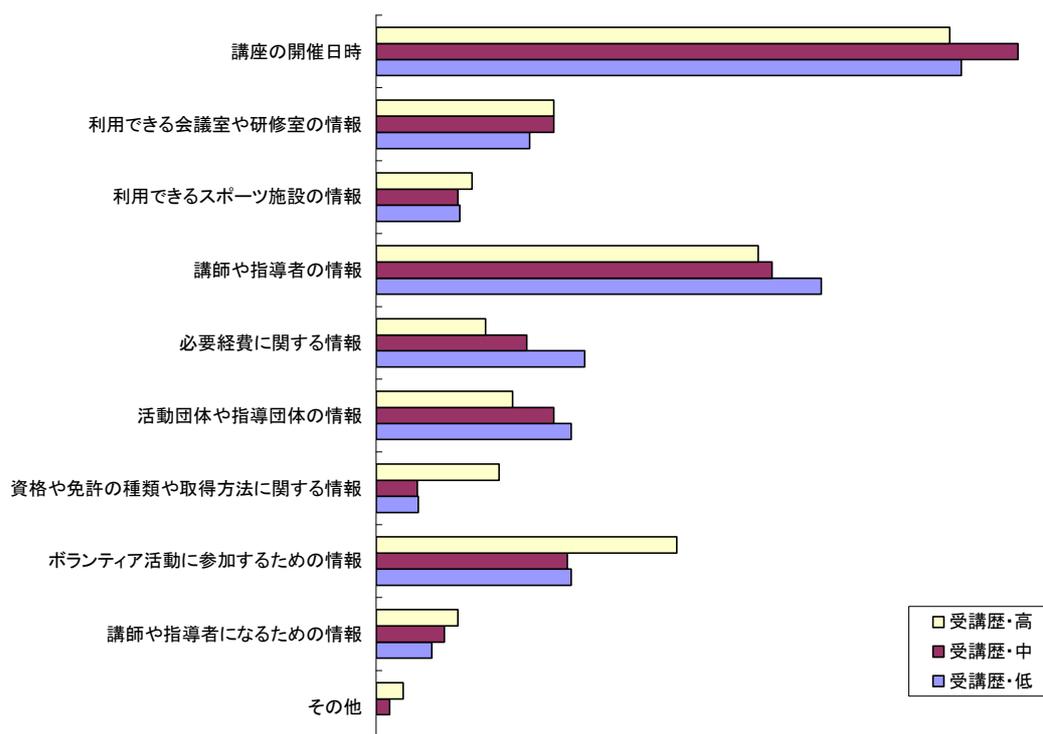


Q15.学習をする上での問題点	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
受講したい講座が近くで開かれない	61.2	68.0	62.7	.761
受講したい講座の時間・時期が不適當	30.6	32.0	25.5	.751
忙しくて時間がとれない	8.2	6.0	2.0	.373
利用しやすい施設や場所がない	14.3	24.0	15.7	.394
講座に関する情報が少ない	57.1	52.0	52.9	.861
経済的なゆとりがない	10.2	10.0	3.9	.417
適當な講師や指導者が少ない	20.4	18.0	11.8	.487
同好の仲間がいない	18.4	6.0	5.9	.059+
周囲の理解が得られない	4.1	0.0	2.0	.349
介護や託児をしてくれる人がいない	2.0	0.0	0.0	.358
学習の仕方について相談できるところがない	10.2	0.0	0.0	.005**
その他	2.0	4.0	5.9	.619

図表 6-4 受講歴別・学習をする上での問題点

4. 受講歴別・学習のためほしい情報

図表 6-5 は、学習のためにほしい情報についての回答を受講歴別にまとめたグラフと表である。受講歴別で違った傾向を示した項目はあまりないが、「資格や免許の種類や取得方法」については受講歴・高で回答が多かった（有意差あり）。受講を通し、これまで得た知識や経験を、目に見えるかたちにしたいという欲求が強まると考えられる。



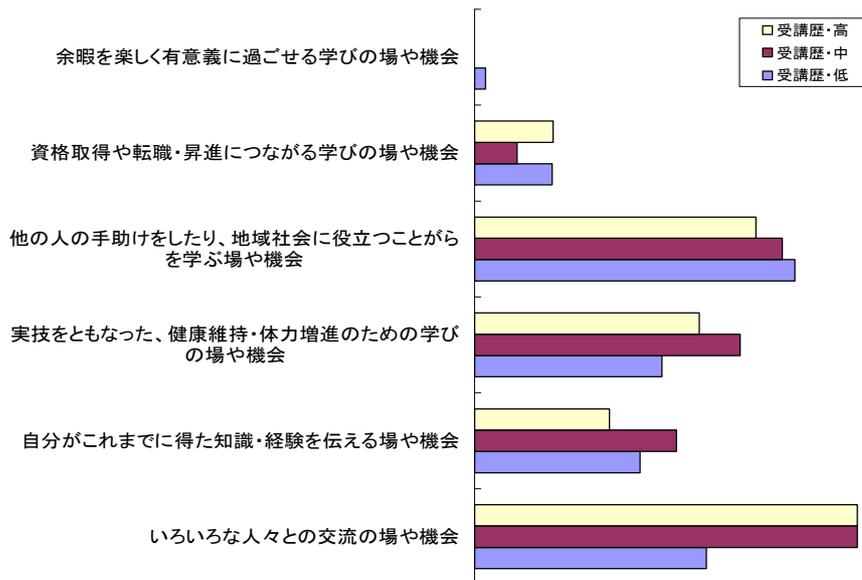
Q16.生涯学習のためほしい情報	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
講座の開催日時	82.4	90.4	80.8	.348
利用できる会議室や研修室の情報	21.6	25.0	25.0	.895
利用できるスポーツ施設の情報	11.8	11.5	13.5	.948
講師や指導者の情報	62.7	55.8	53.8	.631
必要経費に関する情報	29.4	21.2	15.4	.225
活動団体や指導団体の情報	27.5	25.0	19.2	.603
資格や免許の種類や取得方法に関する情報	5.9	5.8	17.3	.074+
ボランティア活動に参加するための情報	27.5	26.9	42.3	.164
講師や指導者になるための情報	7.8	9.6	11.5	.818
その他	0.0	1.9	3.8	.367

図表 6-5 受講歴別・学習のためほしい情報

5. 受講歴別・ほしい場や機会および学習方法・形態

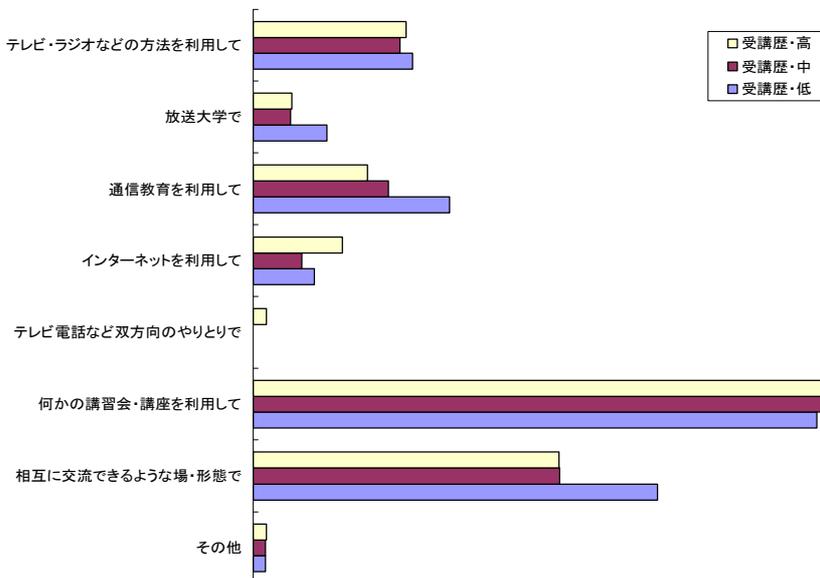
図表 6-6 にみるように、あまり有意な差が見られなかったが、「いろいろな人々との交流の場」については受講歴が多い方のグループで回答が多いという傾向が明確だった（有意差あり）。

図表 6-7 は、学習方法・形態についての受講歴別の傾向を示しているが、グループ間で有意な差は見られなかった。



Q17.ほしい場や機会	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
余暇を楽しく有意義に過ごせる学びの場や機会	1.9	0.0	0.0	.671
資格取得や転職・昇進につながる学びの場や機会	13.5	7.4	13.7	.513
他の人の手助けをしたり、地域社会に役立つことから学ぶ場や機会	55.8	53.7	49.0	.780
実技をともなった、健康維持・体力増進のための学びの場や機会	32.7	46.3	39.2	.358
自分がこれまでに得た知識・経験を伝える場や機会	28.8	35.2	23.5	.421
いろいろな人々との交流の場や機会	40.4	66.7	66.7	.007**

図表 6-6 受講歴別・ほしい場や機会



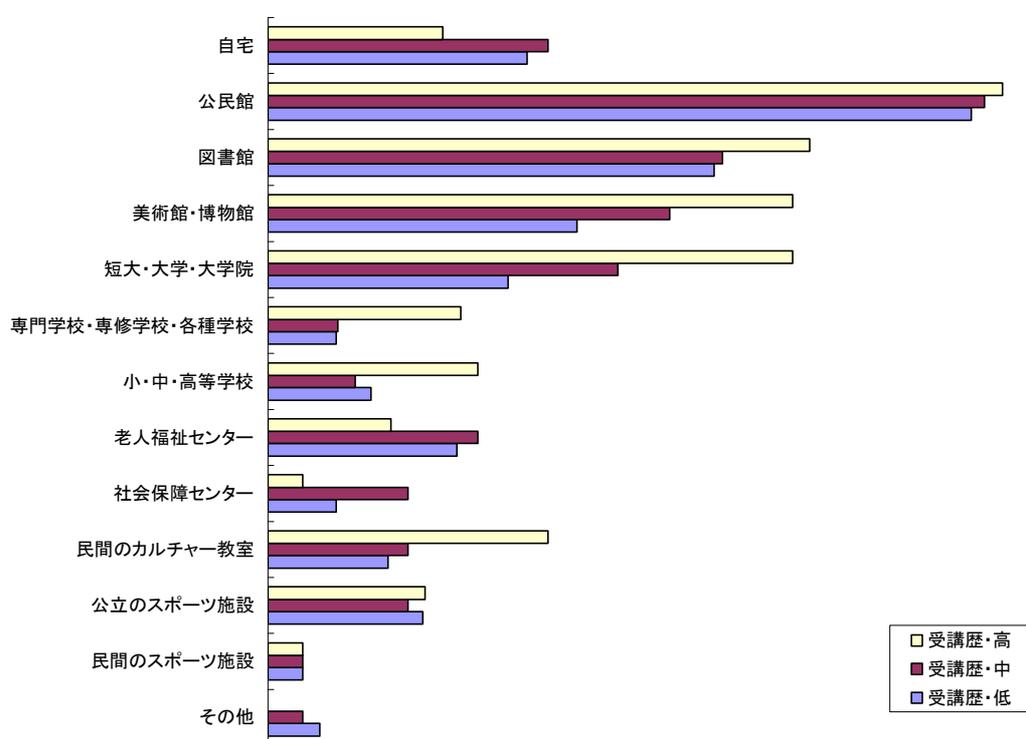
Q18.学習方法・形態	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
テレビ・ラジオなどの方法を利用して	24.5	22.6	23.5	.974
放送大学で	11.3	5.7	5.9	.464
通信教育を利用して	30.2	20.8	17.6	.283
インターネットを利用して	9.4	7.5	13.7	.567
テレビ電話など双方向のやりとりで	0.0	0.0	2.0	.351
何かの講習会・講座を利用して	86.8	94.3	94.1	.278
相互に交流できるような場・形態で	62.3	47.2	47.1	.199
その他	1.9	1.9	2.0	.999

図表 6-7 受講歴別・学習方法・形態

6. 受講歴別・学習したい場所

図表 6-8 は、受講歴別にどこで学習したいかを集計した表とグラフである。一つはっきりした傾向は、受講歴が上がるほど、大学等で学びたいという欲求が高まる（有意差あり）。短大・大学・大学院は、こうした欲求に応えていけば、大学開放をさらに進める余地がありそうだ。例えば、ふるさと学士・修士・博士などの称号を持っている人向けのより高度の講座の開設、あるいは公開授業（市民開放授業）など、一般の学生対象の授業へ参加を認める取り組みなどにつなげることができよう。

大学ほどではないが、専門学校・各種学校、あるいはカルチャーセンターについても同様の傾向がみられる。



Q19.学習したい場所	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
自宅	28.5	30.8	19.2	.369
公民館	77.4	78.8	80.8	.912
図書館	49.1	50.0	59.6	.489
美術館・博物館	34.0	44.2	57.7	.050
短大・大学・大学院	26.4	38.5	57.7	.005**
専門学校・専修学校・各種学校	7.5	7.7	21.2	.050*
小・中・高等学校	11.3	9.6	23.1	.107
老人福祉センター	20.8	23.1	13.5	.428
社会保障センター	7.5	15.4	3.8	.108
民間のカルチャー教室	13.2	15.4	30.8	.049*
公立のスポーツ施設	17.0	15.4	17.3	.961
民間のスポーツ施設	3.8	3.8	3.8	1.000
その他	5.7	3.8	0.0	.242

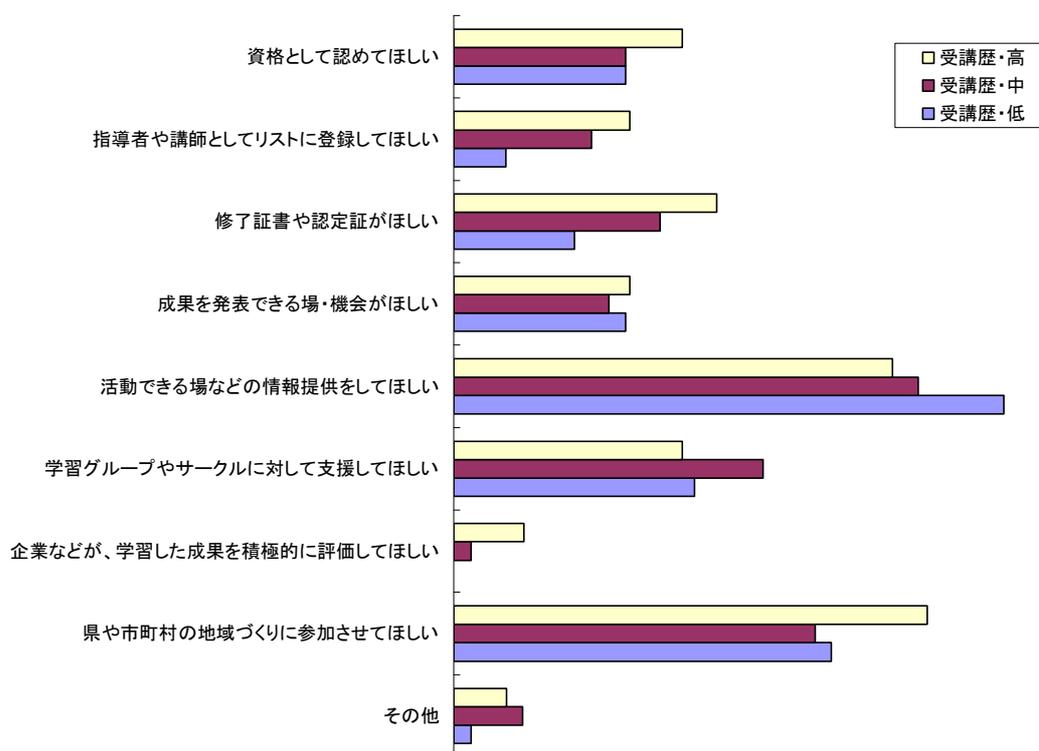
図表 6-8 受講歴別・学習したい場所

7. 受講歴別・活用・貢献のための条件

図表 6-9 のグラフをみると、「指導者や講師として登録してほしい」「修了証や認定証がほしい」の2項目は受講歴が上がるほど条件としてあげる傾向があるように見えるが、統計的に有意な差とまではいかない。

「活動できる場などの情報提供をしてほしい」に関しては、逆に受講歴が浅いグループほど条件にあげているように見えるが、こちらも有意な差とはいえない。

若干の有意差があるのは、「企業などが学習成果を積極的に評価してほしい」という項目で、主に受講歴が高いグループで支持されている項目である。



Q20.活用・貢献のための条件	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
資格として認めてほしい	20.8	20.8	27.7	.661
指導者や講師としてリストに登録してほしい	6.3	16.7	21.3	.105
修了証書や認定証がほしい	14.6	25.0	31.9	.136
成果を発表できる場・機会がほしい	20.8	18.8	21.3	.948
活動できる場などの情報提供をしてほしい	66.7	56.3	53.2	.375
学習グループやサークルに対して支援してほしい	29.2	37.5	27.7	.537
企業などが、学習した成果を積極的に評価してほしい	0.0	2.1	8.5	.063+
県や市町村の地域づくりに参加させてほしい	45.8	43.8	57.4	.356
その他	2.1	8.3	6.4	.395

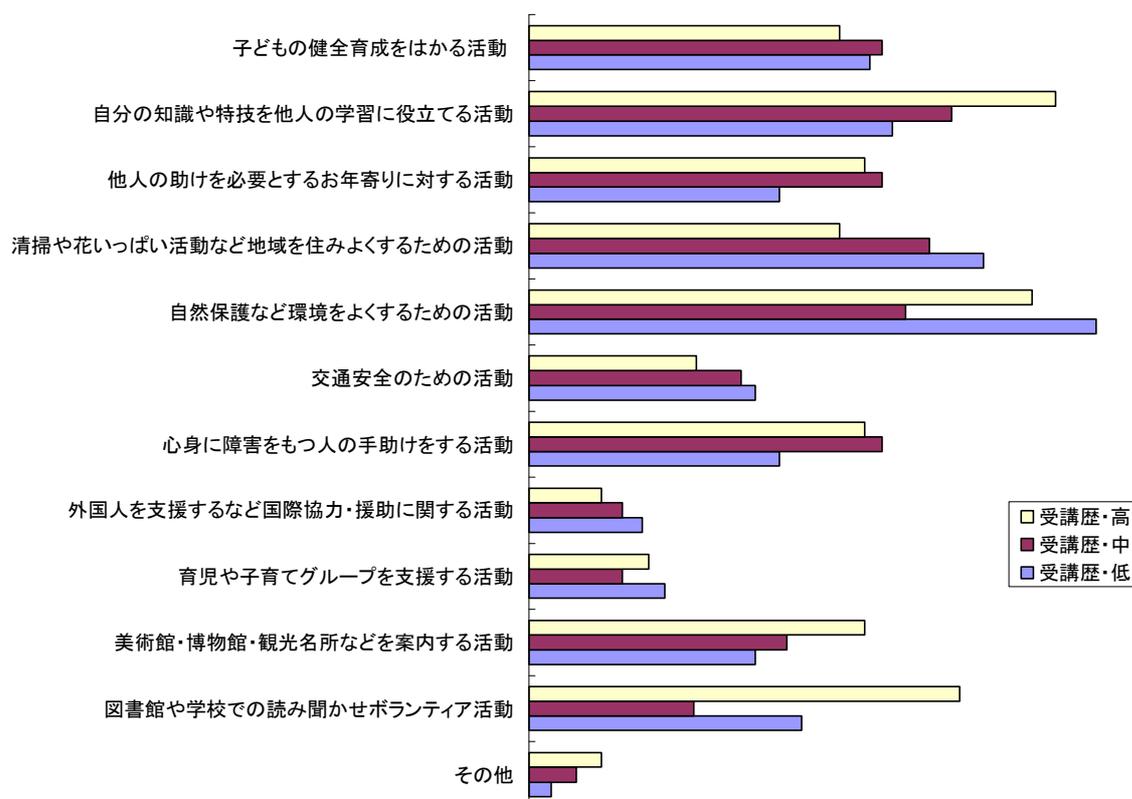
図表 6-9 受講歴別・活用・貢献のための条件

8. 受講歴別・今後取り組みたいこと

図表 6-10 のグラフをみると、「自分の知識や特技を他人の学習に役立てる」「美術館・図書館・観光名所を案内する」の2項目は受講歴が上がるほど強まる傾向があるように見えるが、有意な差があるとまではいかない。

逆に「地域を住みよくする」に関しては、受講歴が浅いグループほど取り組みたい活動としてあげているようだが、こちらも有意な差とはいえない。

若干の有意差があるのは、「読み聞かせボランティア」だが、受講歴が高いグループで人気が高く、次に受講歴・低のグループで支持されている。

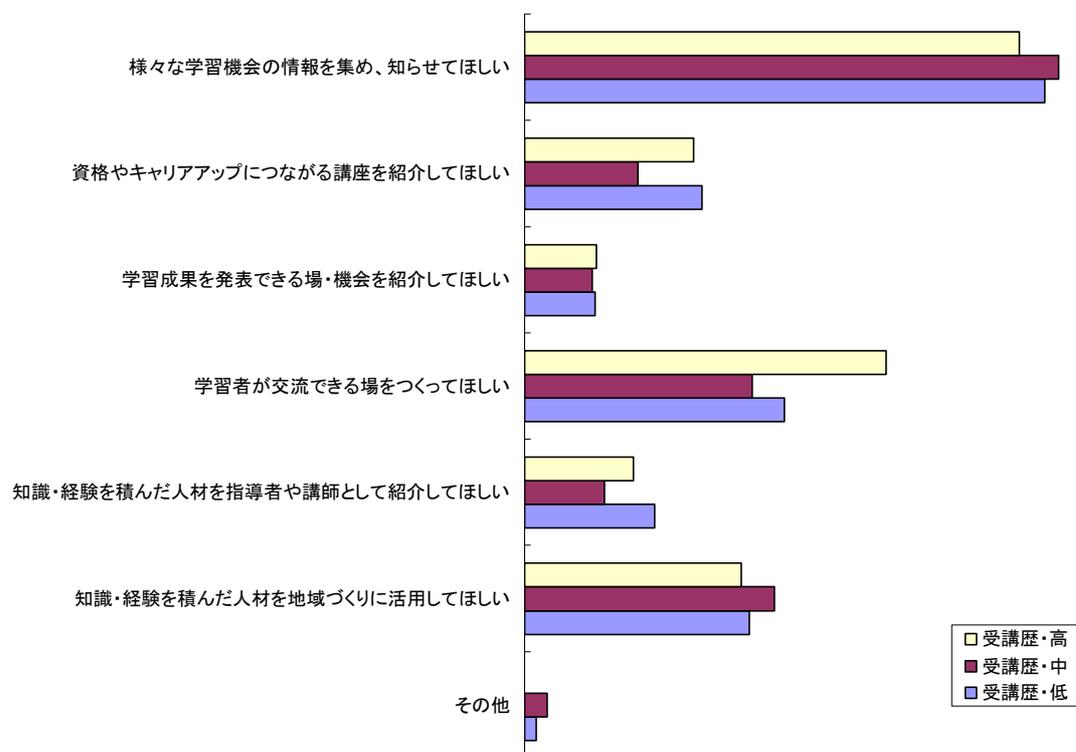


Q21.今後取り組みたいこと	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p
子どもの健全育成をはかる活動	25.9	26.8	23.6	.926
自分の知識や特技を他人の学習に役立てる活動	27.6	32.1	40.0	.368
他人の助けを必要とするお年寄りに対する活動	19.0	26.8	25.5	.575
清掃や花いっぱい活動など地域を住みよくするための活動	34.5	30.4	23.6	.445
自然保護など環境をよくするための活動	43.1	28.6	38.2	.263
交通安全のための活動	17.2	16.1	12.7	.790
心身に障害をもつ人の手助けをする活動	19.0	26.8	25.5	.575
外国人を支援するなど国際協力・援助に関する活動	8.6	7.1	5.5	.807
育児や子育てグループを支援する活動	10.3	7.1	9.1	.833
美術館・博物館・観光名所などを案内する活動	17.2	19.6	25.5	.544
図書館や学校での読み聞かせボランティア活動	20.7	12.5	32.7	.035*
その他	1.7	3.6	5.5	.563

図表 6-10 受講歴別・今後取り組みたいこと

9. 受講歴別・県民カレッジに望むこと

最後に、県民カレッジに望むことについてみる。図表 6-11 のグラフからは、特に明確な傾向が読みとれないが、「学習者が交流できる場をつくってほしい」については、受講歴・高のグループで特に望まれている項目である（有意差あり）。



Q22 県民カレッジに望むこと	受講歴・低	受講歴・中	受講歴・高	p.
様々な学習機会の情報を集め、知らせてほしい	88.0	90.4	83.7	.590
資格やキャリアアップにつながる講座を紹介してほしい	30.0	19.2	28.6	.401
学習成果を発表できる場・機会を紹介してほしい	12.0	11.5	12.2	.994
学習者が交流できる場をつくってほしい	44.0	38.5	61.2	.059+
知識・経験を積んだ人材を指導者や講師として紹介してほしい	22.0	13.5	18.4	.528
知識・経験を積んだ人材を地域づくりに活用してほしい	38.0	42.3	36.7	.833
その他	2.0	3.8	0.0	.384

図表 6-11 受講歴別・県民カレッジに望むこと

第7章

調査のまとめと今後の課題

最後に、これまで得られた結果をまとめ、今後の課題について述べる。

1. 県民カレッジにおける学習状況から

○県民カレッジの学習分野

受講歴と受講希望と比較すると、「介護・福祉」「パソコンやインターネット」、「語学」の項目で、希望の方が受講経験を大きく上回っている。これらの学習分野は実習・体験型で、また教養を身につける座学というより受講者の生活課題に直結したものが多。こうした学習分野では県民（特に継続的学習者）のニーズに講座開設が追いついていない現状がうかがえる。

ただ、自治体や教育委員会において実習型・体験型の講座を開設するには会場や講師、予算の問題など種々の制約があると考えられる。こうした分野に関しては、大学・高校・各種学校などの学校教育機関、また博物館・美術館・図書館などの社会教育施設が、県民向けの実習型講座の開設を増やすか、あるいは授業を社会人に開放するなどの対応をとることが必要であろう。

○受講動機

「趣味・教養」「能力や知識の向上」「生きがいづくり」が上位を占め、自分自身の教養・知識を高め生きがいにつなげるという動機が強い。「他の人との交流」「ボランティア・地域活動」など他者志向を持つ項目はそれよりだいぶ下がる。

称号付与者が主な調査対象であり、経験を活かして教える側になりたいという動機が増えてくるのではと思われたが、「指導者・講師になる」は5%に過ぎない。また、「資格取得」「仕事をする上で必要」「就職や転職」はいずれも数%に過ぎず、多くの時間を費やした受講の主な動機は、キャリア・アップではないことが示された。

2. 生涯学習への取り組み状況から

○学習を進める上で必要な条件

「広報、講座情報提供の充実」が第一にあげられ、様々な講座を継続的に受講している受講者にとっても、まだまだ情報が足りないと感じられているようだ。「広報、講座情報提供」は県民カレッジの主な業務でもあり、充実させる必要がある。

○学習を進める上で問題点

「受講したい講座が近くで開かれない」「受講したい講座の時間・時期が不適當」などが問題点としてあげられ、受講者が受けたいと思う講座をみつけながら、場所や時

間の問題で受講できないという不満をかなりもっていることが確認できる。

○学習のためほしい情報

「講座の開催日時」「講師や指導者の情報」という回答が多く、「ボランティア活動に参加するための情報」は3割強、「講師や指導者になるための情報」は1割に満たない。ふるさと学士・修士・博士などの称号を得たからといって、そこからすぐ教える側に回ろうとする人はそれほど多くない。

○ほしい場や機会

「余暇を有意義に過ごせる学ぶ場や機会」という回答がもっとも多いが、「人助け、地域社会に役立つための学びの場」という回答も半数を超え、社会や地域への貢献の欲求は旺盛である。そうした意欲を実践につなげる方策や環境づくりが望まれる。

注目すべきは「いろいろな人々との交流の場」を求める声が強いことで、講座や教室を学習の場としてとらえるのではなく、学びを通しての交流の場として考える必要があるようだ。自由記述欄には「葵学園」の復活を望む声が多かったが、意見の内容をみると交流の場としての要望があるように思える（付録参照）。

○望ましい学習の場所

「公民館」という回答が圧倒的に多い。受講者が望む学習形態である講座・教室が数多く開かれ、かつ交流の場ともなっているという点が公民館の強みだろう。公民館のあり方についての議論や再検討が進められているが、物理的にも心理的にも身近な学習の場であり、かつ交流の場でもある公民館に対する県民のニーズは依然として高い。自治体が公民館の制度改変を進めようとするならば、学習支援機能だけでなく交流支援機能をどう継承し、発展させるかが重要な検討課題となるだろう。

ついで「図書館」「美術館・博物館」と続くが、次にくるのが「大学」で、三分の一強の支持率である。社会教育施設が県民のための学習の場であるのは当然だが、大学も県民（特に継続的生涯学習者）の学びの場として意外に高い期待を集めている。これに応えるため、大学の方も積極的な働きかけと充実した学習プログラムの開発・提供が必要となる。

○学習成果の活用・貢献のための条件

「活動できる場」についての情報提供を求める声をもっとも多く、「県や市町村の地域づくりへの参加」という回答も多い。

学習成果の活用・地域づくり人材の養成については、県・市町村ともいろいろなプログラムを開設しているが、課題は養成そのものより活用の場づくりとその情報提供にあると思われる（自由記述欄にも人材リストに載せてもらうだけでは活躍できないといった声がある）。アンケート結果をみるかぎり、活躍できる場を用意し、広報に工夫をすれば学習成果を活かしたいという人を取り込む余地はありそうだ。

学習成果をどう活用していくか、地域や社会への貢献にどうつなげていくかは、生涯学習社会構築のための大きな課題であり、上位を占めた項目については早急な対応が必要であろう。

○活動分野と希望活動分野

「自然保護など環境をよくする活動」「図書館や学校での読み聞かせボランティア」「美術館・博物館・観光名所などの案内」「国際協力・援助」については、<やったことがある>を<今度取り組みたい>が大きく上回る。これらの分野に関しては、県民の潜在的なニーズに対応が追いついていないと考えられるが、逆にいえば、対応次第

では今後大きく展開する可能性をもった分野であるといえる。

○県民カレッジへの希望

「学習機会の情報収集・提供」を求める声が圧倒的に多く、「交流できる場をつくる」「知識・経験を積んだ人材を地域づくりに活用」が続く。県民カレッジは「情報収集・提供」についてはすでに一定の実績を積んできているが、潜在的な学習者・利用者により効率的に情報が届くサービスとシステムづくりにつとめる必要がある。

また、示されたニーズからすれば、情報提供にとどまらず「交流の場づくり」「地域づくりへの活用」に焦点を当てたサポートも望まれる。

3. 受講者年齢別の分析から

○受講希望分野と受講動機

「教育・育児」「法律・経営」「語学」については、低い年齢層で希望する人が多い。受講動機においても、「仕事をする上で必要」「就職や転職」「育児・子どもの教育」については低い年齢層の方で回答率が高い。逆に「他の人々との交流を求めて」については、高い年齢グループで動機としてあげられている。

○学習に必要な条件・学習をする上での問題点

必要な条件では、「勤務先の理解」「夜間・休日での講座実施」「託児コーナー・ボランティアの充実」の項目は、若い年齢層で回答が多い。

問題点では、「忙しくて時間がとれない」「受講したい講座が近くで開かれない」「経済的なゆとりがない」「同好の仲間がいない」の項目について、やはり若い年齢層で回答が多い。

○生涯学習のためほしい情報・場や機会

「ボランティア活動に参加するための情報」は、年齢別・中のグループで希望する率が高い。「他の人の手助けをしたり、地域社会に役立つことがらを学ぶ場や機会」についても、このグループの回答がもっとも高い。この年齢層は、退職直後にあたる世代であり、ボランティアや地域へデビューする人が多い世代だと考えられ、こうした情報や機会へのニーズが高いのではないかと考えられる。

「資格取得や転職・昇進につながる学びの場や機会」「これまで得た知識・経験を伝える学びの場や機会」は、仕事に就いている人が多い若い年齢層でもっとも回答の多い項目である。

「健康維持・体力増進のための学びの場や機会」は、年齢層が高くなるほど選ばれている項目である。

以上みてきたように、育児や職業生活、退職の時期など、どのライフステージにいるかでやはり希望や動機、必要な条件や問題点が違ってくることを確認できる。受講者の属性、生活背景に応じた対応をすることが重要である。

○学習したい場所

「公民館」は上の年齢層（特に中グループ）で支持が高かった。年齢層・高で特に支持が高かったのは「老人福祉センター」「社会保障センター」である。若い年齢層で回答率が高かったのは「自宅」「スポーツ施設」である。

○活用・貢献のための条件

若い年齢層の支持が高かったのは「企業などが学習成果を積極的評価してほしい

い」「成果を発表できる場・機会がほしい」「資格として認めてほしい」の項目で、他の項目についてもこの年齢層の回答率が高いものが多い。この年齢層に関しては、学習成果の評価、認定、活用のためのサポートが重要な課題だと感じる。

年齢層・中グループが他より高い支持率を示したのが、「活動できる場の情報提供」「自治体の地域づくりへの参加」であり、退職直後のこの世代に対しては、活動の場づくりをし、広報するなどの行政サポートが重要であろう。

年齢層・高のグループにおいては、「学習グループやサークルへの支援」を訴える声が大きく、いまある交流および学習成果の活用の場をなくさず、継続するような支援が必要となってくる。

○活動歴と希望活動分野

どの項目でも、若い年齢層の回答が比較的高く、特に「知識や特技を他人の学習に役立てる」「読み聞かせボランティア」の2項目については顕著な差がみられた。

今後どんな活動に取り組みたいかをたずねた質問についても、同様の年齢別傾向がみられ、若い年齢層の回答が比較的高かった。

○県民カレッジに望むこと

「学習成果を発表できる場をつくってほしい」「資格やキャリアアップにつながる講座の紹介」「知識・経験を積んだ人材を地域づくりに活用」については、年齢層が下がるにつれて回答率が高くなっている。

県民カレッジが若い世代にも働きかけを強めていこうとすれば、「キャリアアップ」「地域づくり」「学習成果の発表の場」がキーワードとなってくるだろう。

4. 県民カレッジ受講歴別の分析から

○受講動機

「資格の取得」「他の人々との交流を求めて」の2項目は、受講歴が高いグループの方が高い支持率を示している。「生きがいつくり」については、受講歴・中グループの支持率が高い。

○学習をする上での問題点

「同好の仲間がいない」「学習の仕方について相談できる場所がない」については受講歴が少ないグループで回答が多かった。いろいろな講座を受講しながらも、孤立した学びとなり、仲間づくりにつながっていない、あるいは学習方法などについて相談できないという問題を抱えている人が、特に受講歴・低のグループに多いようだ。

○学習のためほしい情報・場や機会

「資格や免許の種類や取得方法」については受講歴・高で回答率が多かった。受講を通しこれまでに得た知識や経験を、目に見えるかたちにしたいという欲求が強まると考えられる。「いろいろな人々との交流の場」についても、受講歴・高のグループで回答が多い。

○学習したい場所

明確な傾向は、受講歴が上がるほど大学等で学びたいという欲求が高まることだ。大学にとってはこうした欲求に応じていけば、大学開放をさらに進める余地がありそうだ。県民一般向けの講座だけでなく、称号を持っている人向けのより高度の講座の開設、あるいは公開授業（市民開放授業）など、一般の学生対象の授業へ参加を認め

る取り組みなどを検討し、県民の多様なニーズに応じたきめ細かな大学開放を進めることが必要だろう。

○活用・貢献のための条件

「指導者や講師として登録してほしい」「修了証や認定証がほしい」の2項目は受講歴が上がるほど条件としてあがる傾向があるようだ。「活動できる場などの情報提供をしてほしい」に関しては、逆に受講歴が浅いグループほど条件にあげている。「企業などが学習成果を積極的に評価してほしい」は、主に受講歴が高いグループで支持されている項目である。

○今後取り組みたいこと

「自分の知識や特技を他人の学習に役立てる」「美術館・図書館・観光名所を案内する」の2項目は受講歴が上がるほど強まる傾向がありそうだ。逆に「地域を住みよくする」に関しては、受講歴が浅いグループほど取り組みたい活動としてあげている。

「読み聞かせボランティア」において、受講歴が高いグループで人気が高い。

○県民カレッジに望むこと

「学習者が交流できる場をつくってほしい」については、受講歴・高のグループで特に望まれている。

5. 今後の課題

○学習成果の活用に向けて

調査開始時点では、受講歴が高まれば、学習成果を発表したい、学ぶ側から教える側になりたい、地域や社会に貢献したい、という欲求が高まるのではないかと考えていたが、これまでの分析からは必ずしも明確な傾向として確認できなかった。

県民カレッジ推進委員会の委員からは、講師になりたいという欲求は学習を重ねるにつれて高まってくるものというより、学習者の個性によるものが大きいのではないかと、またこの点については分野によって異なり、学習成果により教える側に回りやすい領域としては実技系のものがあるのではないかと、という意見もあった。

地域や社会に貢献したいという欲求をどう実現していくかも含め、学習成果を何らかのかたちで活用するための支援やシステムを検討する必要があると感じた。

○調査対象の問題

今回の調査で反省すべき点は、個々の分析もさることながら、サンプリング（標本化）である。

冒頭にのべたように、今回の調査の眼目は、県内で展開されている生涯学習講座への継続的受講者（数多くの講座・学習機会に参加してきたリピーター）がどのような学習ニーズを持っているか、生涯学習を進めるにあたりどのような課題を持っているのか、学習の成果をどのように活かしたいと考えているのかといった事柄を探ることであった。

その点を見ていくためには、受講歴がほとんどない県民から、ふるさと博士の称号を取得したリピーターまでを対象とし、受講歴があがるにつれて生涯学習へのニーズがどのように変化するかを追う必要があった。リピーターについては、県民カレッジ称号付与者に質問紙を送ることでカバーできたが、比較の対象となる層からサンプルをとることができず、大学公開講座への参加者に回答を依頼するかたちになった。

しかしながら、これはもちろん本来の意図から比較分析をするには問題がある。県への協力を仰ぎながら、一般県民から無作為抽出により対象を選ぶなどの手立てが必要だったと痛感する。機会があれば、サンプリングを留意しながら、改めて調査を行うことを検討したい。

○分析手法

分析手法にも検討の余地がある。継続的受講者のニーズを探るといった今回のテーマには、因子分析や数量化などの多変量解析などを試みるのが有効であろう。多方面の協力を得て集められた貴重なデータだけに、再度分析を試み、さらに様々な示唆を導きたいと考える。

第8章

付録

1. アンケート調査自由記述抜粋
2. アンケート調査票および単純集計結果

性別	年齢	連携講座受講時間	主催講座受講時間	学位	県民カレッジについて	生涯学習について
男	78	500	200	博	井中の蛙であった。目の中が広がった。楽しかった。	
男	70	30	-	-		静岡大学が学問的に地域社会に貢献できる実践的な講座を設け、その呼びかけに参加した人が満足感を味わえるようなものであってほしい。
男	73	500	100	博	同窓会を作っても外に出て遊ぶことの競争で楽しんでいる者が多い。それより[21]の項目にある活動に協力する方を努力すべきである。	
男	70	2944	564	博	(財)静岡県生涯学習振興財団主催の地域葵講座10回コースが浜松市で実施されました。私も喜んで受講しましたが、定員50名のところ参加者が半数に満たないくらいでもったいないです。友人も知らずにいて残念がっている人も見受けられました。要するに事前のPR不足だと思います。	
男	70	471	-	修	現役の頃と違い新しい知識を得ることが楽しみで講座が終了するたびに喜びを感じています。過去受講したほとんどが未知の世界でした。今後も美術文芸は必ず受けたいと思います。	
男	67	248	-	学	これからも自分の趣味等合ったものがあればできる限り受講したいと思います。	
男	66	180	-	-	高齢化が進む現在どのように活動してもらうか県も考えてください。予算がないで学園経費もカットされ、地方に住む県民は惨めです。	
女	75	200	200	学		できる学習を機会・時間を作って勉強したい。
男	72	2000	100	博	現在、城、宿場等の案内ボランティアをしています。これからは地域に密着したボランティア活動に通ずる学習を実施されたいかがかと思います。	
男	66	413	200	博	葵学園が存在したことで在学生の交流が今でも続いています。こんな良い制度をやめたことは大変残念です。年寄りには向学心に燃えているものです。後輩のためにもう一度復活の道を開いてあげてください。	
女	67	200	-	修	身近な所で勉強できるチャンスがほしいと思います。	
女	73	200	500	博		最近市の図書館や文化センターなどで開催される文化講座(例えば市民大学など)が全部夜間に行われます。車の運転ができませんので会場までの交通に苦慮しています。特に帰りはバスも少ないので受講したいと思いつながらあきらめています。もう少し昼間の講座も作ってください。
男	79	-	-	学	学士など資格やキャリアアップの為に学習しているわけではありません。さびてきた頭脳の活性化のため、未知の知識を得たいために、友と共に学んでいるのです。	
男	76	70	-	-		ボランティア活動など個人で始めるのは抵抗があるので色々な会を紹介してもらえると良い。
男	74	-	-	学	高齢者(年金受給者)には受講会費等に対する経済的負担の軽減を考えてほしい。	
男	73	250	350	博	県生活文化部が主催している消費者ホーム講座のようなスタイルで、自宅で3ヶ月間テキストに基づいて学習し、3回に分けて学習結果を答案用紙で回答し採点する。知識を正しく習得でき、実践的な学習方法も良いのではないかと思います。例えば介護、地域防災、健康長寿、脳の活性化の講座	

男	80	600	16	博	かつての葵学園大学のような老人同士がグループ活動しながら学べるような組織がほしい。	
男	64	324	96	修	私は年金生活者ですが、生涯学習に関してはやはり、それにより得られた資格を社会的に認められ、手当てとまでは望まないが、通勤費用ぐらいは支給され、地域の進展に何らかの貢献ができる社会的構造の必要性を感じている。このようなプロセスがこれから迎える高齢社会にできれば、一線を退いた者などの生きがい生まれ、さらに生涯学習をつづける者が増加するのではないかと。また厚生労働省の提唱するPPK活動の求める良い結果にも多大な影響があることを確信しながら単位を重ねてきました。	
女	70	1200	-	博	パソコンの技術を身に付けていきたい。	
男	76	500	200	博	受講によって70歳にして書道などを始めたり、多くの知人友人を得たり大変嬉しかった。特に葵学園での交友は今も続いている。妻の介護と自分の病のため参加できないので寂しい。	
男	67	200	262	修	葵学園の復活を切に希望する	
男	64	250	50	修	県民カレッジは良い制度であると思います。これからも学習を続けていきたい。	
女	86	120	-	-	高度な講座、講師で難しく理解しにくい講義は敬遠したくなる時がありました。政治法律経済もユーモアを混ぜた講義が選ばれれば聞くのにも身が入ります。平成13年度の静岡文化芸術大学小倉勇三先生の漢文の世界から～ⅠⅡの文学講座はとても感激して、もう一度この先生に出会いたいと切に望みますが、準会員では駄目ですか。	
男	71	1200	400	博	講座後、もう少し知りたいと思うことがあります。講座内容に対する最も易しい文献を教えていただけると嬉しいです。	
女	78	-	20	-	年齢と体力でボランティア活動に参加できませんが、学びたい気持ちは一杯です。	
男	74	58	182	学	講座が土曜日の午後に集中しているので、もっと分散できないか。他の講座にも参加したい。	
男	73	-	80	-	県民カレッジとは何か。ふるさと学士の利点は何か、何も知りません。講座受講時手帳云々と言われますが。私は知識を得たい、それを活用したいだけで受講しています。沼津地区は静岡に比べ受講チャンスが少ない。	
男	70	450	90	博	静岡県下で毎年地域別に開催されていますので、静岡市の開催が隔年となり学習の機会が少なく残念に思います。県の中央に位置している静岡市では毎年開催を希望します。	主催される大学や県民カレッジ共に厳しい予算の中で開講されるのですから、受講者も相当の負担をすべきと思います。適切な額を提示していただければ、皆も承知するものと考えます。
男	75	-	30	博		静岡大学や県立大学など地域の生涯学習・人材育成に積極的に協力(講師派遣や行事参加など)して頂きたいと思います。そして学校側と交流を深めていきたいです。
女	41	120	-	学		放送大学に在学中ですが、単位認定試験など三島や浜松まで出て行かなければならず中部地区在住者はとても不便です。静岡市は政令指定都市になるのだから、静岡市で試験が受けられるよう早期に検討していただきたいと思います。仕事をもち、子育てをしながら勉強していこうとする者を応援して下さることを祈ります。

男	72	100	500	学	葵学園が10期で幕を閉じましたが、これは社会の流れに逆行するものだと考えます。是非復活することを望みます。	
男	79	-	146	学	長く続けてほしい。回数も多くやってほしい。	
男	66	473	500	博	静岡県内各地での学習講座を多くしてください。	
男	82	600	-	博	今後ともこのような学習の場を広め進めてくださることをお願いいたします。	
男	64	219	99	学		学習が即人の為世の為にあるべき、なされるべきと規定されるとその足を踏みます。結果としてそうなること、そうなる人もあるとゆるやかに考えていただきたい。
男	71	100	400	博	定年後の県民カレッジは自己実現の場として素晴らしいものでした。年寄り扱いすることなく能動的に係活動などする場作りが大切でないかと思えます。私は広報誌の発行に参加しましたが、それを作るによりやった、から、生きたということが実感できました。それをベースに放送大学に入学しました。老人にももっともっと社会活動をさせてほしい。その基盤づくりを県民カレッジにお願いしたいものです。	
女	58	-	20	-	身近な場所、交通の便が良いところでなるべく多くの人が参加できるように工夫した学習内容でカレッジが開かれるように望みます。	
男	81	100	200	博	研修会、意見交換等発表する場が欲しいです。	
男	66	-	500	博	中高年の仲間作りを推進するためのセミナーに行政や企業の理解と支援を望む。	
女	91	-	-	学	県民カレッジの活動を知ることが遅く、参加する機会を失います。	
女	67	90	377	修	地域的に交通が不便で県主催の講座がなくなり残念です。(指導者や講師としての人材不足、資格取得キャリアアップの講座が組めない)僻地軽視の考え方が感じられます。どんな地にも税金を払っている県民が住んでいるのです。	
男	62	440	-	修	博士単位を取得して目標無しでは困る。教養や知識を生かし活動できる道を県で考えて欲しい。目標と根性を持って博士号取得、そのまま社会にも役立てず死んでいくのは寂しいです。何か県民のため、国のため、世界平和のため生ず生涯学習でありたい。	
男	74	240	750	修	生涯学習として個人の能力・知識の向上を図ることはもちろんですが、習得したものが社会貢献に結びつくようサークルや活動の場作りを主催者側として積極的に支援していただきたいと思えます。	
男	66	-	-	博	葵学園の再開を！	
女	72	-	-	-	浜松市で社会人大学講座は開いていただけないのでしょうか。	
女	76	200	340	博	内容の充実した学習をしたいという希望が実現したのが葵学園でした。久しぶりの学生生活を堪能でき、続けて専攻コース、県民カレッジ講座、学校開放講座等々飲み溢れる学習ができました。ただ土地柄か活動の場が少ないのが残念です。平成12年度から知的障害者更生施設へ週2回定期的にボランティアに行っていますが、在宅障害者のヘルパーも必要といわれています。こうした講座もあつたらいいと思っています。有難うございました。	
男	63	10	150	学	ふるさと総合学等は県下全市で年1、2回の開催を希望します。高齢者にとって遠方会場への参加は大変ですので、地元会場で受講できるようご高配をお願いします。	
男	78	-	-	-	年齢と健康面で思うようにいかないが、現在宗教的な生涯学習に取り組んでおり自分自身では満足しています。	
男	69	-	750	博	7期県民カレッジで学習させて頂き本当に有難うございました。その後も大学講座など浜松や静岡にも出かけました。博士を取ってからも地域の講座やボランティア活動に参加しておりますが、仲間も高齢化してしまいました。もっと多くの人、若者も参加できるような募集をして頂きたいと思えます。	
女	83	30	-	-	年齢ですが学習することは大好きです。今後ともいろいろ学習の場を作ってくださいをお願いいたします。	
女	69	-	-	博	支える側の高齢者です。生きがいとして知識を持ちたいので機会があれば参加します。	

女	68	348	364	博	老人介護で疲れていますが、地域で開催される講座には参加したいです。一日留守にはできないので2時間程度の講座をお聞かせください。	
男	67	100	-	学	雑学でもいいので勉強したい。	
女	67	90	180	修	市町村で年々予算が少なくなり考え方が後退しているように思う。交通の便の悪い過疎地で毎回70人からの高齢の人が集まる、集まれるところはありません。是非生きがいを感じる機会を無くすことなく支援してください。街中と違いあれこれ選ぶほど機会はないのです。	
女	68	688	-	博	色々な認定は頂いただけ。交流も何もありません。既にグループがあつたりして若い人たちの中には入れませんでした。自分たちで活動するだけです。休まないで出席した思い出だけです。	
男	77	300	-	修	今まで色々の学習に参加させていただき有難うございました。	
女	69	550	120	博	私は養学園終了後、心身障害者の施設に非常勤講師として2年間勤務しました。その間も数多くの生涯学習(講座)に参加して有意義な時間を過ごさせて頂きました。現在でも学習意欲は十分にあります。そして地域のため、人のためにお役に立ちたいと思っています。それには力不足、体力不足の感有り。生涯学習が身近なところで受けれたら幸せです。	
女	65	140	-	学	県民カレッジの単位認定は楽しみです。公の場で活動する機会はありませんが、自分自身が一生懸命という思いで勉強できるものに取り組んでおります。そんな中で地域にもお役にたてられたらと思います。	
女	50	-	14	-	質問がどうして世の中の役にたつためのことばかりなんですか？他人・社会・地域・国の為？学習は自分の為で、あとの事は付いてくるものではないのですか？質問事項が変です。	
男	81	300	250	博		勉学は一生涯のものと思っています。年齢の事もあって今は助け役に決めています。それが来たかと思えます。当町の担当者は熱心ですが、告示板やチラシも少なく講座を知らないという者が大多数です。教育長の肩力如何で受講人員多寡となろうと思えます。
女	71	208	-	-	戦中戦後と学ぶ機会がなかった私に生涯学習の場を与えて下さったことを感謝いたしております。昨秋より夫が病になり休みが多くなりましたが快方に向っておりますので今後もできるだけ学習したいと思います。よろしく願いいたします。	
男	66	-	12	学	今までの伝統的な学問よりも新領域の分野を考慮して講座を設けて欲しい。例えば環境保全では、科学生物物質などの学際的情報とは違った複合的な最近の研究分野を紹介して欲しい。	
女	68	500	200	博	市職員が単位認定等について良く理解していない場合があります。種々の講座情報に県民カレッジ対象を最近では全く記入されておらず島田市の場合知らない人も多いように見られます。	
男	75	75	-	博	私は様々な資格を取得、認定されていますが、それを生かす場がありません。また、県生涯学習インストラクターの会にも入会しておりますが、これもほとんど活動の場がありません。今後活動の機会がありましたら教えて頂きたく願います。	
男	76	200	500	博	折角生涯学習の意欲を持って県民カレッジに参加した人々です。その成果の発表の場と地域リーダーとしての自覚を持つるワンランク上の講座を計画されたいかがでしょうか。	
男	66	300	600	博	会社に勤務中は家と会社の往復で自身の健康管理、地域社会に対する奉仕、お手伝いは皆無であった。従ってリタイア後は生涯学習によって学ぶ知識や技能を地域社会への奉仕(自然保護・観光ボランティア・青少年健全育成・心身障害者への手助け等)と自身の健康管理に寄与させたいと思う。よって生涯学習の内容もそれらをカバーするものであって欲しい。	

男	76	350	500	博	葵学園のような学習のできる機会と場所を再度提供して欲しい。
男	76	-	-	-	カレッジ・履修と、習い覚えて資格取得を得る考えはございません。
男	67	-	224	学	馴染みの薄かった内容に好奇心から挑戦しました。先生の指導は新鮮で受講者は生き生きとしています。私自身変身といった感じで充実した楽しい日々を送らせて頂いています。大方企画される方の望みも知らない不心得な受講生かもしれません。質問項目にはやや抵抗感があるものの、ボランティアにも参加しています。私の目線をもっと上げなくちゃと反省したアンケートでした。ありがとうございました。
男	73	300	250	博	毎年必要な予算措置をし、従前通り生涯学習の推進を図って欲しい。
女	72	-	550	博	葵学園の復活。広報活動の充実。生涯学習は事故の学びから地域貢献へと発展したい。
女	78	-	-	博	博士号を習得しても活用の方法がない。
男	75	300	200	博	定例的に(週1回くらい)NHK等のテレビで「県からのお知らせ」のような番組内で学習関連の紹介があれば楽しみが増えると思う。
女	70	-	-	-	平成10年に転入し、12年から楽しく参加させて頂いております。現役を去り静岡県の風習風土を知るために参加できたことは私生活に大きな勇気・自身を持たせてくれました。高齢化社会に対して最大の問題は医療費です。これを軽減するには心身共に健康管理をすることが大事と思う。今度もこの様な機会に参加できますことを楽しみにしております。
男	56	-	10	-	学ぶ場情報提供と【21】の中で人手不足になっている活動の情報を提供して欲しい。
男	69	-	-	博	短期間の学習では、地域に還元することも人づくり仲間づくりによって次のステップに進めることも難しい。
男	73	-	-	博	予算の関係で将来県民カレッジが廃止されるとの噂があるが続けて欲しい。
男	70	30	500	博	講座が短絡的で系統的に深掘りがない。
男	72	600	200	博	県民カレッジ・葵学園を廃止しないで欲しい。
女	72	80	160	学	参加したくても距離的に無理な場合が多いので会場の設定を増やして欲しい。年1・2回は学士修士博士を取得した方を対象に交流、勉強の場を設けて欲しい。いろいろお世話になり現在があることを感謝しています。今後ともよろしく願います。
男	73	400	-	博	有料でも良い。良い環境・良い講師の講座を希望します。例えば国土交通省で実施している地域文化塾のようなもの。
男	21	-	-	学	学校の体育館使用など、スポーツ施設をより使いやすくして欲しい。大学や市立図書館をもっと長時間使用できるようにして欲しい。県民カレッジの情報が全く手に入らない。
男	74	266	315	博	葵大学では多くの方たちと新たな出会いがあり楽しく勉学させて頂きました。しかし残念なことに廃止されました。皆さんと話をしても多少くらい負担するのは当然だから復活すればよいという事を聞きます。自分たちの頃にも評判が高かったものなので、是非復活して頂けるようお願いいたします。
女	83	-	9	-	自身のあった健康面が少し不調になり取り戻すために懸命です。アンケートの協力も不出来で申し訳ございませんでした。
女	70	-	-	博	年齢的に県民カレッジのような今回の質問にはお答えできず大変申し訳ありません。現在は公民館で趣味講座を楽しんでいます。
男	75	248	0	学	自己研鑽の目的で地域強度の歴史等今まで学べなかったことを学びたい。また講座開催の情報を公民館・図書館等へ出向かなくても得られるよう希望する。各講座とも立派な資料で非常に分かりやすいいつでも見られて感謝しています。資料づくり大変だと思えます。ありがとうございます。講師の皆様もありがとうございます。

男	69	144	244	修	学習意欲はあるものの習得能力低く大変申し訳なく思っております。今は見た異変の分野(福祉・環境)などに積極的にチャレンジしたいと念じております。この意欲を活用できれば幸いです。組織的に活かすシステムがあれば人材としてまだまだお役に立てそう、立ちたいです。
女	72	1500	800	博	静岡市を中心に伊豆から浜松まで昼夜問わず寒さ厭わず講座通いに明け暮れました。大変お世話になりました。長く続けますと以前聞いた話と線で繋がって楽しかったこともありましたが、先生によっては、不勉強な方もいました。平気で何年も前のプリントを配ったり、説明不足であったり、横柄だったり。若い先生方頑張ってください。
女	65	407	-	修	身近ですばらしい学習ができるこの制度が存続することを願っています。
男	69	-	-	博	県民カレッジは何をやっているのか解らずお金の無駄にすぎない。現状では市町村もバラバラで講座情報も少なく、学士をとるのも難しい。静岡の葵学園を作るにも苦労したと思うが、予算がないからと潰してしまうのは残念でならない。他県からも担当者が視察に来ていて静岡県は進んでいると思っていたのに本当に残念。できれば再度スタートして欲しい。葵学園に学習した人たちが現在地域でどのような活動をしているかを調査してみるのも良いと思う。皆それぞれの地域で活躍されているはずである。それに人の交流もあり皆元気です。健康な高齢者社会を作っていくためにも是非必要と考えます。
男	77	1440	-	博	浜松市教育委員会に浜松地区の数人で申し出、名簿を上げているがその後何ら動きがない。もっと活用して下さい。協力します。
女	77	-	-	-	数年前までは様々な講座に意欲的に参加してきたし、小さなグループだが立ち上げ市の委託でセミナーの企画をして実施している。しかし自分の年齢を考えると限界である。県民カレッジ・生涯学習は人間として豊かに生きるためにますます大切だと思うから、強気に推進して頂きたいと念願している。
女	66	368	46	修	在住地での受講したい講座が少ないのでもう少し広域で受講できるようにして欲しい。今までは教養コースで学ぶ楽しさで満足しています。地域活動やボランティア活動に役立つ講座があれば積極的に受講し地域づくりに参加したいと思っています。専攻コースも積極的に受講したいと思います。
男	86	-	-	博	非常に大事な企画であり感謝しております。一層のご発展を心よりお祈りいたします。
女	73	400	100	博	私は東部葵に6期生として学べる嬉しさと沼津・三島に通学しました。修了後は県民カレッジ500時間を目標に公民館などで受講し博士の認定証を頂きましたが、その後県民カレッジに関する声はあまり聞かれなくなりました。これからは公民館・新聞などでもっと情報を提供されてはいいかでしょうか。また健康長寿財団が以前開講していたゆうゆう大学などに参加するとか、葵修了生の同窓会活動なども役立ててみてはいいかでしょうか。
男	85	200	600	修	葵学園がなくなってしまったことは残念。行政としての一貫性・継続性・権威が疑われます。県民カレッジの中核的存在ではなかったですか。
女	67	60	200	学	葵10期生として生涯学習に参加させて頂き、学習・人間の交流など本当に良かったと思います。なぜ県は中途半端に止めてしまったのか。予算がないという理由は裏金づくりの一部を回せば充分できるのに残念でなりません。後輩たちが開催されるのを待ち望んでいます。是非再開して下さい。計画は長期を見据えて企画して下さい。行き当たりばったりはやめて下さい。
男	69	170	30	学	60代は社会奉仕の年代であるとの思いから退職後は地域の公的な諸団体、私的なサークルなどの一員として微力ながら活動して参りました。70代を迎えるにあたっては、自分自身の教養知識をどこまで高められるか、生涯学習を私なりの理解の元に努力していきたいと考えています。できることなら一般教養講座の解説も希望します。
男	76	484	200	博	県民カレッジの認識度が低い。更にPRすべきである。

男	79	430	70	博	最近パワーポイントを用いた講義が多くなり、その画面をテキストに用いるケースが多いが、読みづらいケースも間々ある。配慮して欲しい。	
男	67	30	10	-	県民カレッジはこれまでに大変な貢献をしてきたと思います。これから何らかの形で残して頂きたいと思います。	
女	73	-	-	博	今までに色々勉強させて頂きました。70歳位までは夢中でやって来ましたが最近は何のせいかわれもこれというわけにはいきません。観光のボランティアを通じて、歴史のことや皆様との交流をしています。人間は勉強することで楽しくできます。	
女	61	134	532	修	富士宮市では毎年4月より成人学校として様々な教科が開講されますが36単位72時間で修了します。第2期を設け、同じ内容でより高度な技能や知識を深め指導者としての道が開かれるような学習ができればいいと思う。	
男	76	446	32	修	富士市でも県民カレッジを開講して欲しい。富士市民大学の講座は内容を再検討して欲しい。日本史は世界史等あれば受講者が増えると思う。	
女	78	-	500	博	日頃から大変お世話になっております。今後ともよろしく願いいたします。	
女	80	-	-	学	現在60～90歳の方たちが公民館で自主運営という形で講座に参加しておりますが、場所が狭く、階段を昇るのに苦労いたしております。夜間の講座は行きたくても道路交通等で苦慮しております。	
女	57	102	-	学	静岡県内で学習の機会が増えたと思われるが、地域的な偏りがあるので残念。またネットによる学習方法はセキュリティー等の問題を含み経験上今一度再考の余地有り。50～60代の人にとって高卒が当たり前なので、今勉強への意欲は多いと思うので、もっと大学が連携して学習の機会を増やして欲しい。	
女	79	307	200	博	私は最後の葵学園にご縁を頂き、本当にありがたく思っています。多くの先生方のお話をお聞きすることができ、また色々なお友達との交流。年を忘れるほど前向きに過ごすことができました。	
女	71	400	200	博	経費負担があっても葵学園を続けて欲しいと思います。そうすることで高齢者の医療費も減るし若い時代思うように勉強できなかった時代の取り戻しもできると思います。	
女	66	77	200	学	下田に住んでいますと、静岡や沼津等の講座講演で心動かされるものがあったりも体力的に断念してしまいます。ぜひ伊豆に居てもそのような機会に恵まれるようにご配慮下さい。	
女	56	40	-	-	身体の具合が悪く足が遠のいています。また参加できるの良いのですが。	
男	79	90	50	学	講師として大学教授が多いですが、専門的になりすぎて我々には解りがたく、また活用できがたい場合が多々あります。なるべく平易で理解しやすい内容にして欲しいものです。	
女	68	179	500	博	生涯学習(葵)の2年間の学習で生き甲斐と良き友人を得られたことに感謝しています。県外から転居してきてこの地域のことを色々学んだり周りの人との交流ができ良かった。	
女	77	50	400	-	生涯学習など思いもよりましたが、諸先方の講座が楽しく、クラスメートのレベルが高いですが理解できる人たちです。身体的に余裕のない時もあるけれど、現状で社会に何かしたいと思うことしきり。どんどん老いてゆきます。	
女	63	168	36	学	偏りのある講座(図書関係)が毎年あるので講座の内容を幅広くやって欲しい。例えば生活に役立つ法律関係。参加者が話を聞くだけでなく、自由に討議できる場も欲しい。	
男	30	-	-	-	県民カレッジはいくつか受けた記憶しか残っておらず【6】【7】の記入ができませんでした。	静岡大学の公開講座沼津会場を受け、その時の山本先生の講座が楽しく、静岡大学夜間主に入学生現任いろいろ学んでいます。
女	67	-	-	博	生涯学習について今思うことは、学生時代に勉強にあまり力を出すこともなく過ぎてしまった。国際社会の中で今歴史について勉強し直したい。日本史世界史の授業に一般の人も受講できたらと思います。	

男	76	150	450	博	県民カレッジの年度計画を市の広報誌に定期的に掲載したり地域の掲示板等に貼るなど広く一般にPRして頂けたらよいのではと思います。
女	38	-	-	-	安い価格で受講できるのはとても嬉しいです。同じ講座を次回は違う場所・時間でローテーションしてくれるとまた受けやすくなるかもしれません。今後もできるだけ受講したいと思っています。
女	64	300	-	学	指導者や講師、認定証とリストに登録しても意味がない。このアンケートは何に使って、どう現状を捉えていくのか。
女	64	36	160	学	多くの講座を受講でき、学ぶことの楽しさを改めて再認識出来ました。学習をより日常の生活等に具体化できる方向にいけたらと考えています。小さくても遅い歩みでも自ら作り上げることは楽しみでもあり、生き甲斐に繋がります。ありがとうございました。
女	70	258	16	学	富士宮市の場合、1～3回の講座では県民カレッジのシールが出ないときがありました。
男	77	-	-	博	能力、記憶力が減速して残念ですが頑張っています。もう少しレベルを落とした講座がありましたら教えて下さい。
男	63	200	-	学	いつもお世話になっております。今後ともよろしく願っています。
男	69	20	20	博	色々なことを沢山学んだり体験したい気持ちで一杯ですが、現在は体調不良で歩くことも困難。更に家内の介護で手一杯で時間的余裕もなく残念です。
男	61	-	-	-	県民カレッジふるさと〇〇とか、内容が良く分からない。
男	28	-	-	学	意見ではありませんが、子どもは障害者で町の青年講座に出席すると日数でスタンプを押してもらっているということで、特に自分でこれをやりたいとかはないと思います。ただ同じような友達と時を一緒に過ごすことが楽しみで出席しているのだと思います。アンケートの内容自体子どもたちがやっているものとはほど遠いので空白が多いのですがすみません。
女	57	10	-	-	楽しんで学習する場を提供することと指導者や講師に活用することとは分けて考えたいと思う。あまり安易に学士など量産するより国家資格など確実に実力を評価できる制度があるのでチャレンジするきっかけづくりに役立てれば良いと思う。
女	73	200	500	博	生涯意欲的に学習に取り組みたいと思いますので、県民カレッジを楽しみにしています。
男	69	1600	-	学	今まで生涯学習で学んだ中で仲間づくりの為の時間が全くなかった。ネームプレートの配布だけでなく、開講初日に参加者が自己紹介する時間があれば、それで人を知り、会話のきっかけにも至り、始業前とか休憩時に話が出来て仲間づくりに発展していく。
女	66	-	-	博	このところ情報が少なく県民カレッジのあることを忘れていました。このアンケートで思い出しました。情報があれば自分にあった講座に出席したいと思っております。
男	79	-	-	-	せっかくのアンケートにもお答えすることができませんで申し訳ありません。
女	65	10	220	学	じっと座って講義をされますと居眠りが出て先生には失礼でしたが、出掛けるとすると緊張し気が張ってくるので本当に良かったです。
男	66	300	30	博	知事が生涯学習活動を活発にするということを言っているが信用できない。葵大学を予算の関係で中止にしたりするから。静大、県大が県に変わり頑張って実施して頂きたい。
男	73	-	-	博	学士などの認定は学習促進の意義を感じますが、時間数だけではとても確信なく曖昧で自分の知識に自信が持てない感じがします。発表の場を設けてそれを通じて研鑽できるようにするなど、一人で留まらず他の人たちとの交流と向上を図るようなことが必要だと思います。学習の内容も単発のものではなく体系的な学習のできるような工夫が必要だと思います。

女	41	-	8	-	今回アンケートをしてみてきっと静岡県にはこのような活動に意欲的な方がいるのだと頼もしく思いました。色々な場で色々な人と関わりたい、人の役に立ちたい、知識を得たいという人は多いと思いますが、それぞれの状況でタイミングが大事なのだと思います。多くの人の機会が得られるよう広報活動をして頂けるとありがたいです。意欲のある方は少ない情報でも自ら参加できると思いますが、より底辺を広げるようお願いします。
女	69	-	-	-	生き甲斐づくりのために今後も学び続けたいと思っています。会場はもっと学びやすいところで受講したいです。機会があったら自分の知らない事を学んでいきたいです。よろしくお願いします。
男	56	698	66	博	博士の上に大博士を作ってください。更なる励みのため是非お願いします。教育委員会事務局社会教育課長さん、その後どうなりましたか。
男	75	999	999	博	指定講座でなくそれ以外に多くの講座がある。
男	73	999	2	修	年齢が多くなると知識各論資格が多くなり指導者としては適任ですが、健康が大切で体調が悪いと控えめになります。まず健康的な丈夫な体づくりが一番と思います。公民館は机を運び毎回片づけて使用するので何とかならないかと思います。また畳の部屋は貸し洗りで色々大変です。

調査へのご協力のお願い

皆様にはますますご清祥のことと存じます。

日頃より、しずおか県民カレッジ事業に多大なご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

さて、この度、静岡県における生涯学習のよりいっそうの推進のため、しずおか県民カレッジの講座を数多く受講され「ふるさと学士」を取得された方々や、日頃から生涯学習に取り組んだおられる方々に、今後の生涯学習のあり方に関するご意見をうかがいたく、アンケート調査を企画いたしました。

この調査によって得られたご示唆・知見は、静岡県の生涯学習推進への貴重な資料とさせていただきます、目的外に使用することはありませんので、お気軽に思うところをお答え下さい。

よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

【ご記入およびご返送について】

- ・ご記入は、必ず封書宛名のご本人にお願いします。
- ・お忙しいところ恐縮ですが、ご記入が済みましたら同封の返信用封筒にて2月10日までにご返送いただけますようお願いいたします。
- ・アンケートの中でご不明の点がありましたら、下記までご連絡ください。

(財) 静岡県生涯学習振興財団・しずおか県民カレッジ担当

(TEL 054-205-1215 E-mail: yuyclub@mail.wbs.ne.jp)

静岡大学生涯学習教育研究センター

(TEL&FAX 054-238-4817 E-mail: lckabe@ipc.shizuoka.ac.jp)

企 画：しずおか県民カレッジ推進委員会

事務局：(財) 静岡県生涯学習振興財団
静岡大学生涯学習教育研究センター

平成17年2月

調査代表者 阿部 耕也

静岡大学生涯学習教育研究センター助教授

県民カレッジおよび生涯学習に関するアンケート・単純集計

※あてはまる記号に○をつけてください。数字やことばを書く質問もあります。

はじめにあなたご自身についてうかがいます。

N=263 (発送数 462 回収率約 57%)

- 【1】あなたのご住所は… 静岡県 _____ 市 町 村
- 【2】あなたの性別は… ア. 男 155 (59.2) イ. 女 107 (40.8)
- 【3】あなたの年齢は… 満 [平均 69.3] 才 (平成17年1月31日現在)
- 【4】あなたの主な生活のかたちは、次のどれにあたりますか。
- | | |
|----------------------------|------|
| ア. 会社や役所に常勤で勤めている | 5.0 |
| イ. 自分で事業や店をやっている | 7.6 |
| ウ. 家業を手伝っている (家事手伝いは含みません) | 2.3 |
| エ. 短期契約やパートなどで働いている | 4.6 |
| オ. 専業主婦 (主夫) である | 19.1 |
| カ. 学生 | 0.4 |
| キ. 無職 | 54.2 |
| ク. その他 () | 6.9 |
- 【5】あなたの学歴についてお尋ねします。あてはまるものに○をつけてください。
- | | | | |
|----------------|------|------------|------|
| ア. 中学校卒業程度 | 9.2 | エ. 大学卒業程度 | 17.2 |
| イ. 高校卒業程度 | 45.6 | オ. その他 () | 6.5 |
| ウ. 短大・専門学校卒業程度 | 21.5 | | |
- 次に県民カレッジについてうかがいます。
- 【6】あなたは、これまで県民カレッジ関連の講座をどれくらい履修しましたか。
(平成17年1月31日現在でお答えください。)
- A) 連携講座 約 [] 時間 B) 主催講座 約 [] 時間
- 【7】あなたがもっとも最近認定された学位は次のうちどれですか。あてはまるものに○をつけて下さい。
- ア. ふるさと学士 30.8 イ. ふるさと修士 16.6 ウ. ふるさと博士 52.1
- 【8】あなたはこれまで主にどの分野の講座を受講してきましたか。3つ選んで○をつけてください。
- | | | | |
|------------|------|-----------------|------|
| ア. 文学・歴史 | 86.0 | カ. 教育・育児 | 11.6 |
| イ. 文化・芸術 | 60.5 | キ. 法律・経営 | 15.1 |
| ウ. 自然科学 | 28.3 | ク. 語学 | 4.3 |
| エ. 自然保護・環境 | 39.9 | ケ. パソコンやインターネット | 11.2 |
| オ. 介護・福祉 | 11.6 | コ. その他 () | 10.5 |
- 【9】あなたはこれからどの分野の講座を受講したいですか。希望の分野に3つ○をつけてください。
- | | | | |
|------------|------|-----------------|------|
| ア. 文学・歴史 | 69.6 | カ. 教育・育児 | 7.0 |
| イ. 文化・芸術 | 46.3 | キ. 法律・経営 | 21.0 |
| ウ. 自然科学 | 29.2 | ク. 語学 | 10.5 |
| エ. 自然保護・環境 | 47.9 | ケ. パソコンやインターネット | 22.2 |
| オ. 介護・福祉 | 33.5 | コ. その他 () | 6.6 |

【10】 県民カレッジ関連の講座を受講した動機についてうかがいます。次の項目のうちあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 仕事をするうえで必要	2.9	キ. 指導者や講師になりたい	5.0
イ. 自分の能力や知識の向上	78.4	ク. 生きがいをづくりのため	71.0
ウ. 資格の取得	5.0	ケ. 他の人々との交流を求めて	53.1
エ. 就職や転職	0.4	コ. 育児、子どもの教育	3.3
オ. 趣味や教養を広げる	86.7	サ. その他 ()	4.1
カ. ボランティアや地域での活動	36.1		

次に県民カレッジの主催講座についてうかがいます。

【11】 あなたは、どのような内容の主催講座を希望しますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 地域づくりを支援する地域リーダーの養成講座	62.4
イ. 学校や図書館を舞台に子どもの健全育成を支援するボランティア養成講座	30.0
ウ. 博物館など社会教育施設を舞台に県民の生涯学習を支援するボランティア養成講座	50.5
エ. その他 ()	13.3

【12】 あなたが主催講座に参加するとしたら、どの曜日・時間帯が都合がよいですか。あてはまるものに○をつけてください。

ア. 平日午前	46.0	エ. 土曜午前	12.1	キ. 日曜午前	5.9	コ. その他	2.1
イ. 平日午後	50.2	オ. 土曜午後	18.8	ク. 日曜午後	7.1	()	
ウ. 平日夜間	11.7	カ. 土曜夜間	4.6	ケ. 日曜夜間	2.1		

次にあなたの生涯学習への取り組みについてうかがいます。

【13】 あなたは、最近1年間に次のような講座・活動に参加されたことがありますか。参加したものにいくつでも○をつけてください。

ア. 県や市町村、教育委員会が開く講演会・講座など	77.6
イ. 民間の講座・教室	54.8
ウ. スポーツなど身体を動かすイベントや大会	28.2
エ. 地域の集まりやボランティア活動	42.1
オ. 大学や短大・高校の公開講座	35.1
カ. 趣味・学習のサークル等	56.6

【14】 あなたが学習をする上での必要事項についてうかがいます。どのようなことがあれば、あなたの学習がより進むと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 休暇の取得などについての勤務先の理解	3.5
イ. 夜間や休日などの講座実施や終業年限をゆるめる	12.2
ウ. 通信教育制度やインターネットなどを利用した学習方法の多様化	22.7
エ. 託児コーナーの設置や託児ボランティアの充実	3.1
オ. 広報、講座情報提供の充実	84.3
カ. 受講料の軽減	47.2
キ. その他 ()	5.7

【15】 あなたが学習をする上での問題点についてうかがいます。あなたが学習をする上で、どんなことが問題になっていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 受講したい講座が近くで開かれない	63.9	ク. 同好の仲間がない	9.0
イ. 受講したい講座の時間・時期が不適當	30.0	ケ. 周囲の理解が得られない	2.7
ウ. 忙しくて時間がとれない	7.2	コ. 介護や託児をしてくれる人がいない	0.9
エ. 利用しやすい施設や場所がない	17.9	サ. 学習の仕方や進め方について相談できるところがない	3.6
オ. 講座に関する情報が少ない	54.7	シ. その他 ()	7.2
カ. 経済的なゆとりがない	6.7		
キ. 適当な講師や指導者が少ない	16.6		

【16】あなたは、生涯学習を進める上でどのような情報がほしいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 講座の開催日時	84.5
イ. 利用できる会議室や研修室の情報	25.8
ウ. 利用できるスポーツ施設の情報	11.2
エ. 講師や指導者の情報	56.7
オ. 必要経費に関する情報	24.9
カ. 活動団体や指導団体の情報	25.3
キ. 資格や免許の種類や取得方法に関する情報	9.9
ク. ボランティア活動に参加するための情報	31.2
ケ. 講師や指導者になるための情報	8.6
コ. その他 ()	1.3

【17】あなたは、どのような場や機会があればよいと思いますか。次のうち、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 余暇を楽しく有意義に過ごす学びの場や機会	77.2
イ. 知識・技能を高め、資格を取得したり転職・昇進につながる学びの場や機会	9.9
ウ. 他の人の手助けをしたり、地域社会に役立つことがらを学ぶ場や機会	50.6
エ. 実技をともなった、健康維持・体力増進のための学びの場や機会	39.7
オ. 自分がこれまで得た知識・経験を伝える場や機会	26.2
カ. いろいろな人々との交流の場や機会	56.5

【18】あなたは、どんな方法・形態で学習したいと思いますか。次のうち、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. テレビ・ラジオなどの方法を利用して	24.1
イ. 放送大学で	8.0
ウ. 通信教育を利用して	23.6
エ. インターネットなどを利用して	9.7
オ. テレビ電話など双方向でのやりとりで	0.4
カ. 何かの講習会・講座を利用して	92.8
キ. 相互に交流できるような場・形態で	51.1
ク. その他 ()	2.1

【19】あなたは、どんな場所で学習したいと思いますか。次のうち、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 自宅	27.1	ク. 老人福祉センター	22.1
イ. 公民館	79.2	ケ. 社会保障センター	9.2
ウ. 図書館	54.2	コ. 民間のカルチャー教室	17.5
エ. 美術館・博物館	45.4	サ. 公立のスポーツ施設	17.1
オ. 短大・大学・大学院	36.7	シ. 民間のスポーツ施設	5.8
カ. 専門学校・専修学校・各種学校	11.7	ス. その他 ()	2.9
キ. 小・中・高等学校	15.4		

【20】あなたは、様々な機会ですんだり身につけたりしたことを生かすため、どのようなこと望みますか。次のうち、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 資格として認めてほしい	24.8
イ. 指導者や講師としてリストに登録してほしい	13.1
ウ. 修了証書や認定証がほしい	20.4
エ. 成果を発表できる場・機会がほしい	18.9
オ. 活動できる場などの情報提供をしてほしい	52.9
カ. 学習グループやサークルに対して支援してほしい	29.6
キ. 企業などが、学習した成果を積極的に評価してほしい	4.4
ク. 県や市町村の地域づくりに参加させてほしい	47.6
ケ. その他 ()	6.1

【21】 次の活動の中で、あなたがこの1年間にやったことがあるものはどれですか。また、今後新しく、または引き続いて取り組みたい活動はどれですか。あてはまるものには（ ）に○をつけてください。

	やったこと がある	今後取り 組みたい
ア. 子どもの健全育成をはかる活動	(23.6)	(26.2)
イ. 自分の知識や特技を他人の学習に役立てる活動	(31.2)	(27.0)
ウ. 他人の助けを必要とするお年寄りに対する活動	(20.5)	(21.3)
エ. 清掃や花いっぱい活動など地域を住みよくするための活動	(30.4)	(26.2)
オ. 自然保護など環境をよくするための活動	(26.3)	(34.6)
カ. 交通安全のための活動	(17.1)	(13.7)
キ. 心身に障害をもつ人の手助けをする活動	(20.2)	(21.3)
ク. 外国人を支援するなど国際協力・援助に関する活動	(6.3)	(11.4)
ケ. 育児や子育てグループを支援する活動	(10.6)	(7.1)
コ. 美術館・博物館・観光名所などを案内する活動	(10.3)	(20.5)
サ. 図書館や学校での読み聞かせボランティア活動	(7.2)	(21.7)
シ. その他 ()	(4.6)	(3.4)

【22】 あなたは、しずおか県民カレッジにどのようなことを望みますか。次のうち、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ア. 様々な学習機会の情報を集め、知らせてほしい	75.3
イ. 資格取得やキャリアアップにつながる講座を紹介してほしい	20.2
ウ. 学習成果を発表できる場・機会を紹介してほしい	10.3
エ. 学習者が交流できる場をつくってほしい	38.4
オ. ふるさと学士など知識・経験を積んだ人材を指導者や講師として紹介してほしい	12.9
カ. ふるさと学士など知識・経験を積んだ人材を地域づくりに活用してほしい	31.6
キ. その他 ()	1.5

【23】 その他しずおか県民カレッジおよび生涯学習等についてご意見がありましたら、ご記入ください。

※これでおわりです。長時間にわたりご協力いただき、ありがとうございました。

報告書執筆者

阿部 耕也 静岡大学生涯学習教育研究センター助教授

編集後記

本調査は、静岡大学生涯学習教育研究センターが（財）静岡県生涯学習振興財団の協力を得て、県民カレッジ称号授与者を中心とした県民に対するアンケート調査を実施したものである。

調査および報告書執筆の過程で多くの方々の協力を得た。しずおか県民カレッジ推進委員会では委員の方々に多くの示唆をいただいた。静岡県生涯学習振興財団関係者の方々には、調査への協力の他にも県民カレッジに関する資料・データの提供など種々のサポートをいただいた。また、貴重な時間と労力を割いてアンケート調査にご協力いただいたしずおか県民カレッジ称号付与者の方々、静岡大学公開講座受講者の方々に厚く御礼申し上げる次第である。

しずおか県民カレッジ受講者における 生涯学習ニーズに関する調査報告書

発行年月日	平成 18 年 3 月 31 日
編集・発行	静岡大学生涯学習教育研究センター 〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 TEL&FAX 054-238-4817
印刷	黒船印刷株式会社 〒422-8033 静岡市駿河区登呂 2-4-25 TEL 054-238-0236 / FAX 054-281-3881